

短期大学学生に関する調査研究
-2009年 JJCSS 調査全体結果報告-

平成 22(2010)年 10 月

財団法人短期大学基準協会
JCIRP 短期大学学生調査チーム
(研究代表:山田礼子)

目次

巻頭言

まえがき	1
調査結果	3
参加校の意見	5 3
<付>集計表一覧	5 8

巻頭言

本冊子は、平成 21（2009）年度に短期大学基準協会調査研究委員会が、山田礼子同志社大学教授をリーダーとする「大学生調査研究プログラム」（JCIRP）の研究開発に協力して実施した「短期大学学生調査 2009 年（JJCSS2009）」の、全体結果です。

JCIRP の開発してきた学生調査には、四年制大学の新生を対象とした JFS と高学年を対象とした JCSS とがありますが、ともにカリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所（HERI）が行ってきた Freshman Survey と College Student Survey をもとに、HERI の許諾を得て、日本版としての独自項目を加えて開発されたものです。JJCSS2008 は、この内の JCSS を、学習効果測定法に主眼をおきつつ、短期大学に適合する形で作成したもので、平成 20（2008）年度実施の JJCSS2008 から第 2 回目のものになります。

調査の実施に当たっては、当該年度の予算枠等から算定して調査件数 10,000 件を上限とし、平成 21 年 11 月 4 日に本調査の概要を説明した文書及び調査票の見本を全会員校に送付し、参加を募りました。その結果、申込期日までに 30 校（件数 8,850 件）の申し込みがあり、これらを調査実施校とし、平成 21 年 12 月 2 日に調査票を発送、平成 21 年 12 月末に同票の回収をいたしました。その後、データ入力作業等の整理を行い、平成 22 年 3 月に短期大学ごとの集計結果を参加短期大学にご提供いたしました。さらに、得られたデータ全体を用いての分析が、山田教授のもとに JCIRP 内に組織された「短期大学学生調査チーム」により進められ、同年 9 月に全体集計結果が中間報告としてまとめられ、それを参加各校にお送りしてアンケートにより本調査に関するご意見を伺い、その結果を加えてこの最終報告書が作成されました。

この調査では、参加した個々の短期大学は、自校のデータを得る他、それと全体集計結果を付き合わせることによって、吟味された項目によって精度の高い自己評価資料が得られることから認証評価への対応に役立つだけでなく、標準化された調査に参加することによって国際的な比較を含む他機関とのベンチマークが可能となり、さらにはマーケティングへの利用などのメリットがあると考えられます。また、全体結果自体は、短期大学の実績を社会に示すことになると考えられます。

調査研究委員会では今回の結果を踏まえ、JCIRP に協力して「短期大学学生調査 2010 年」を実施することとしています。また、今後は調査結果に分析を加えて活用を図り、その成果を会員校などに還元する活動を展開してまいります。

本調査に協力いただきました関係各位に感謝するとともに、本報告書が様々な形で活用され、本調査が発展して日本の高等教育の展開に資するようになることを願ってやみません。

平成 22 年 10 月
調査研究委員会委員長
館 昭

まえがき

山田礼子（調査研究委員会委員／同志社大学）

私ども JCIRP(Japanese Cooperative Institutional Research Program)研究グループは財団法人短期大学基準協会のご協力と支援を得て、日本版短期大学学生調査(JJCSS=Japanese Junior College Student Survey)を開発し、2008年の12月に初めての調査を実施した。2009年には2回目の調査を実施し、2010年には3回目の短期大学学生調査の実施を予定している。

本報告書は、2009年に実施した調査結果についてまとめたものである。2009年度の報告書は、各質問項目をそれぞれグラフと巻末の資料の表で図示することにより、調査への参加者のプロフィールや回答傾向がわかりやすいように示している。

調査は2009年12月の1ヶ月間で実施され、参加短期大学は、30校、参加人数は7244名であった。

回答者の専攻分野別内訳は、保健衛生 3.6%、看護 4.1%、農工 5.2%、人文 11.2%、経営 11.1%、福祉 4.2%、家政 5.6%、栄養 12.9%、教育 34.5%、芸術 1.1%、その他 6.5%である。2009年度の学校基本調査の短期大学関係分野別学生の内訳は、保健 8.0%、農工 4.0%、人文 12.4%、社会 11.9%、家政 20.5%、教育 29.6%、芸術 4.4%、その他 9.2%となっており、本調査の看護を保健に、経営と福祉を社会に、栄養を家政に含めるとそれほど学校基本調査と大きな隔たりはないと思われる。

短期大学学生調査(JJCSS)は、これまでに JCIRP 研究グループが実施してきた大学生調査(JCSS=Japanese College Student Survey)と新入生調査(JFS=Japanese Freshman Survey)の知見をベースに開発した調査である。短期大学は四年制大学と比較すると2年間という短い課程のなかでの学生の成長を検証していくことが必要となる。しかし、逆に2年間という教育課程であるがゆえに、教育目標を設定することにより、カリキュラムの改革に着手しやすい。それゆえ、四年制大学以上に間接調査としての学生調査結果を教員が共有し、教育方法やカリキュラム改革に結果を利用することが可能であると期待できる。

それでは、私どもが開発した間接評価としての学生調査全体のプログラムを紹介し、短期大学学生調査の開発とその意義について述べておきたい。Japanese Cooperative Institutional Research Program(JCIRP)(大学生調査研究プログラム)は新入生調査(JFS)、大学生調査(JCSS)と短期大学学生調査(JJCSS)の3つの学生調査からなるプログラムである。JFSとJCSSは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所(UCLA-HERI)の許諾を得て、HERIが行ってきたCIRP Freshman SurveyとCollege Student Survey(CSS)をもとに日本用の独自項目を加えて開発されている。JJCSSはJCSSなどを参照しながら、日本で短期大学用に独自に開発した調査である。それぞれの調査票は、学

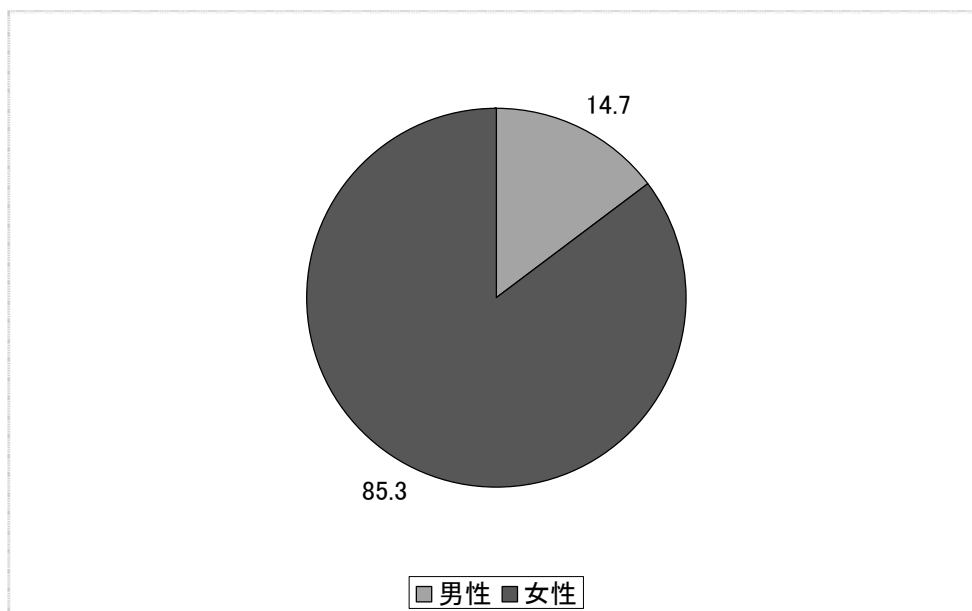
生の入学以前の背景、大学や短期大学での経験、満足度、獲得したスキルや能力、生活習慣、自己評価、価値観等の項目から構成されており、自大学・短期大学の学生の全体像が把握できるようになっている。JCIRP プログラムに参加した場合、参加大学・短期大学の個別調査データを返却することにより、参加機関にとっては、当該大学・短期大学の学生に関する詳細なデータが得られるとともに、同じ調査に参加した他大学を含む全体の学生の統計データとの比較が可能になる。このことにより、①大学教育改革のために役立つ、②入学志願のマーケティングに役立つ、③ア krediyteshon（認証評価）対策として役立つ、④ベンチマークとして役立つ、⑤国際比較ができる、⑥共同研究に参加できるというようなメリットがある。

調査結果から得られた学生の傾向から、より学生が授業に活発に参加できるように授業の形態を考えていく資料にもなる。JJCSS 調査の開発に当たっては、四年制大学生調査との違いを把握しながら、質問項目を考察してきた。たとえば、短期大学は 2 年間という短期の教育課程であることから、四年制大学での正規課程外での活動に関わったり、活動時間を長くとることはできない。また、インターンシップに長時間行く時間や異文化間の体験をする期間が、カリキュラムの中で位置づけられる余裕は四年制大学と比べると時間的にも限られている。一方で、資格や職業に直結したカリキュラムが丁寧に構築されているなど、四年制大学とは異なるカリキュラム構造となっている。こうした点を反映するように試みている。

今回 JJCSS に参加された短期大学あるいは今後 JJCSS への参加を企図している短期大学は、是非 JJCSS の分析結果、あるいはデータを利用していただき、より良い短期大学の教育プログラム、学生支援プログラム、そして教員の教育方法の改善など FD にもつなげていただきたいと開発者一同願っている。開発して間もないことから、まだまだ不十分な点が少なくないが、より多くの短期大学の参加と継続して調査をすることを通じて、精緻な分析と短期大学の実態に基づいた調査を開発し、多くの短期大学が利用できるような標準化した調査にしていきたい。

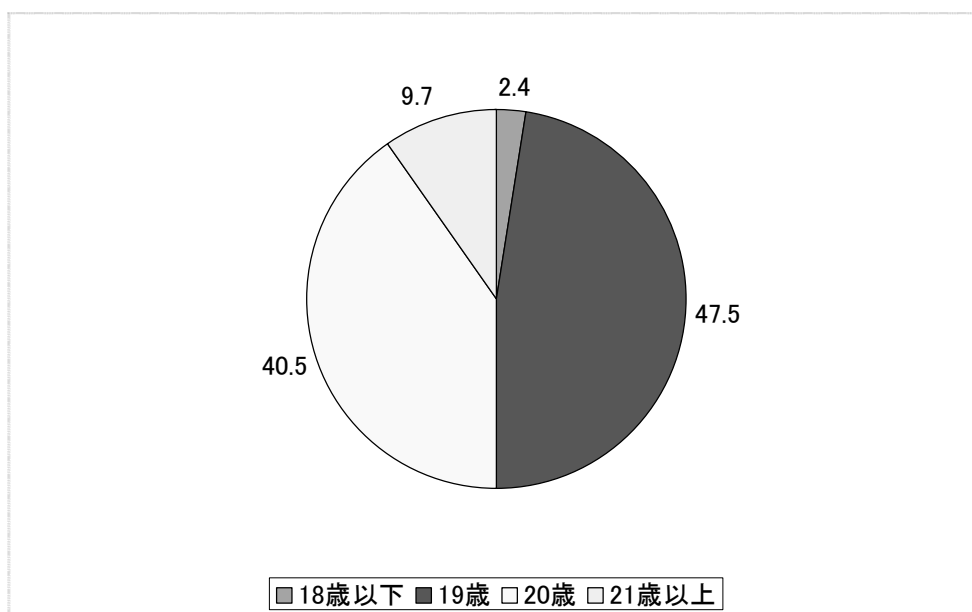
調査結果

[1] あなたの性別をお答えください(%)。



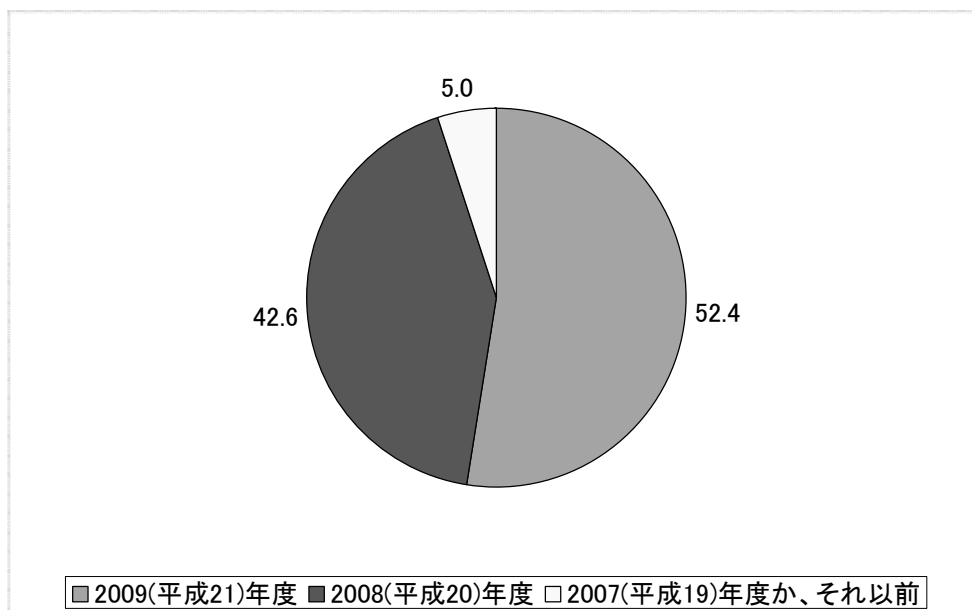
性別をたずねた問いでは、回答者のうち 14.7%が男性、85.3%が女性となっており、女性の占める割合がたいへん高いことがわかる。

[2] 今年度(2009年4月～2010年3月)、あなたは何歳になりますか(%)。



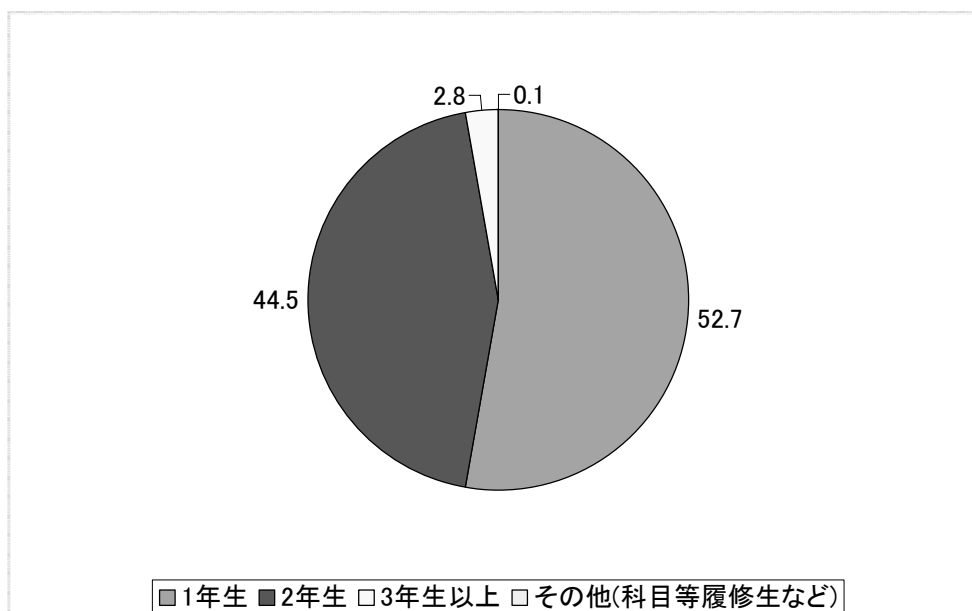
対象者の年齢は 19 歳と 20 歳にそれぞれ 47.5%、40.5%と集中している。18 歳以下から 21-23 歳までの幅をとると、この年齢域に全対象者の 97.5%が入る。

〔3〕 あなたは本学に何年度に入学しましたか(%)。



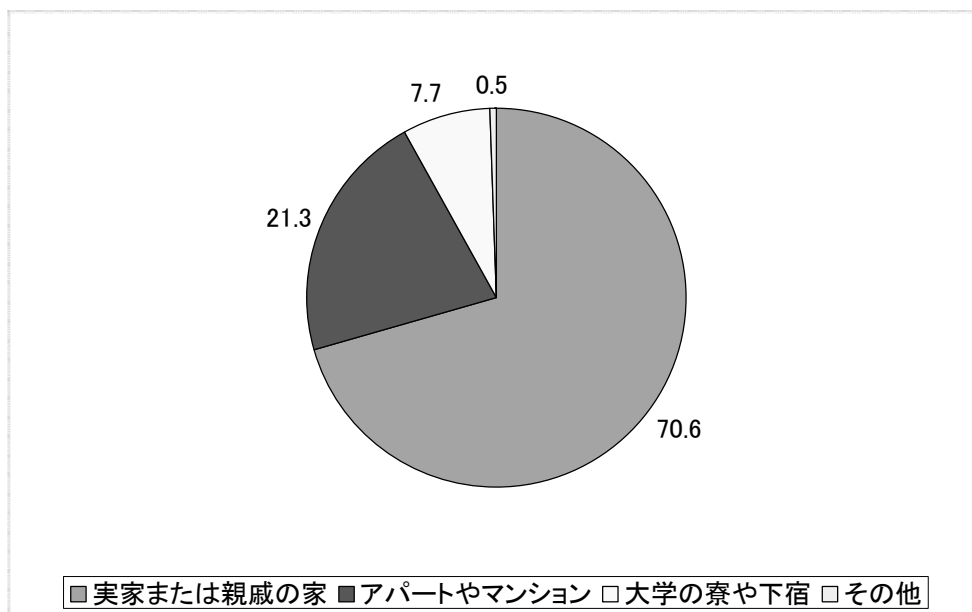
2009年度に入学した学生が52.4%、また2008年度に入学した学生が42.6%を占める。2007年度以前に入学した学生も、全体の5%いる。

〔4〕 あなたの現在の在学状況を教えてください(%)。



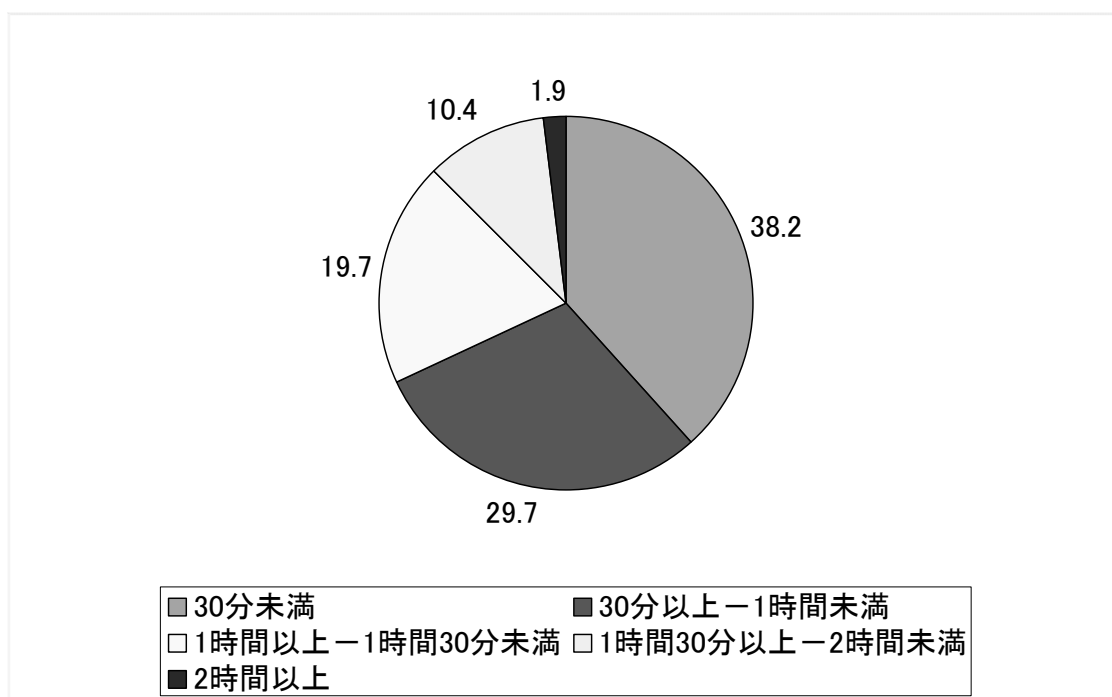
対象者の52.7%が1年生で、44.5%が2年生である。3年生以上が2.8%、その他(科目等履修生など)が0.1%いるが、対象者の大半が短大の標準年限内の学年に入っている。

〔5〕 あなたの現在の住まいは次のうちどれですか(%)。



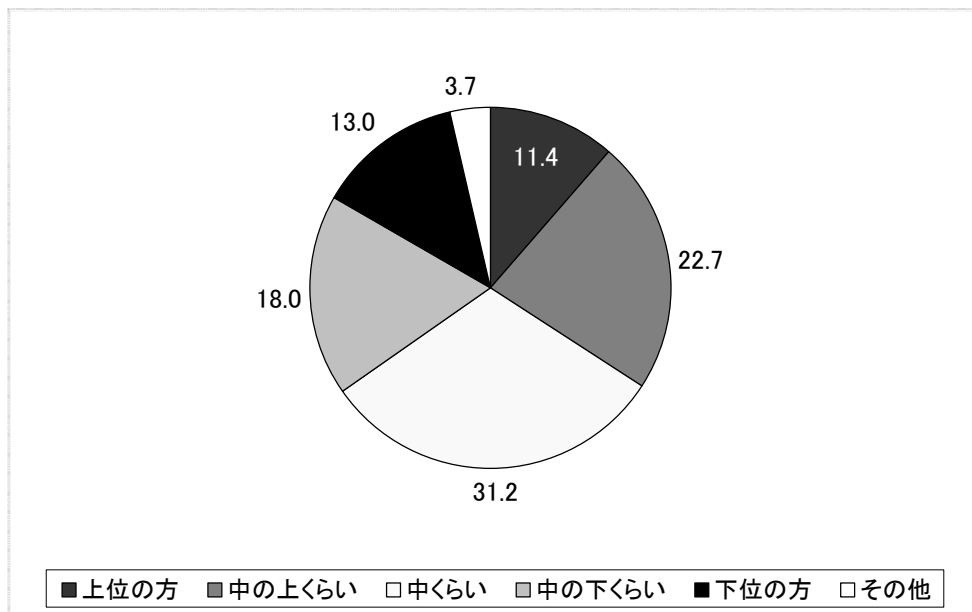
実家または親戚の家というものが 70.6%と多い。学生の多くが家族ないしは親戚と一緒に暮らしていることがわかる。アパートやマンション(21.3%)、あるいは大学の寮や下宿(7.7%)といった形態で、家族のもとを離れて暮らしている学生も全体の 1/3 ほど存在する。

〔6〕 あなたの片道の通学時間はどれくらいですか(%)。



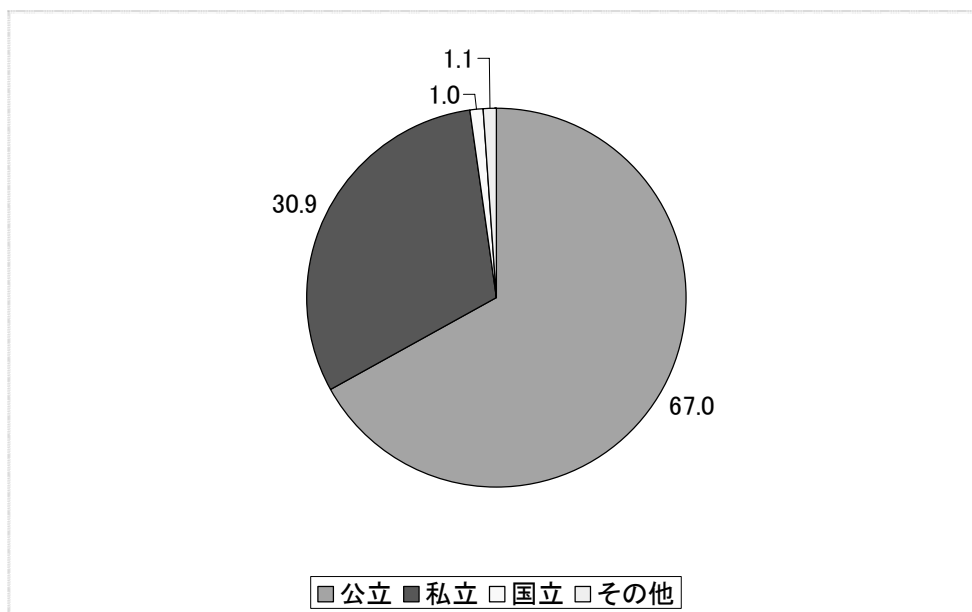
通学時間の分布を見ると 30 分未満という学生が 38.2%ともっとも多い。30 分以上 - 1 時間未満の学生は全体の 29.7%で、通学時間が 1 時間未満の学生を合計すると約 7 割になる。1 時間以上の時間をかけて学校に通っている生徒も一定数存在していて(全体の約 3 割)、このことは比較的多くの学生が自宅から通学しているという事実(前問の結果)を反映した結果であろう。

[7] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか(%)。



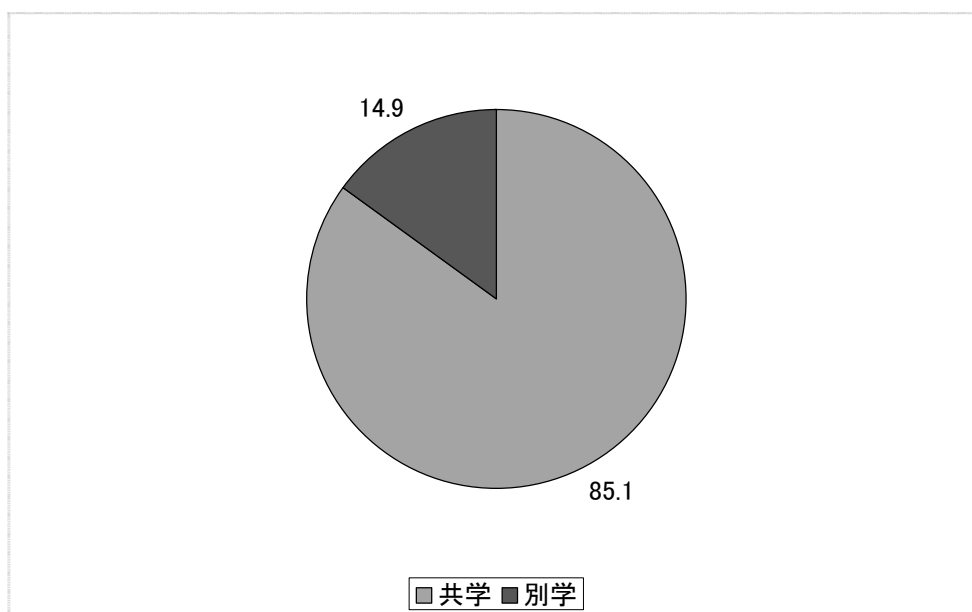
高校での成績は中くらいと答えるものの比率が 31.2%でもっとも高い。上位の方と中の上くらいがそれぞれ 11.4%と 22.7%、中の下くらいと下位の方がそれぞれ 18.0%と 13.0%で、中くらいを中心に正規分布に近い形状で回答があらわれているといえる。

〔8 (1)〕 あなたの高校は公立(県立・市立など)、私立、国立のどれでしたか(%)。



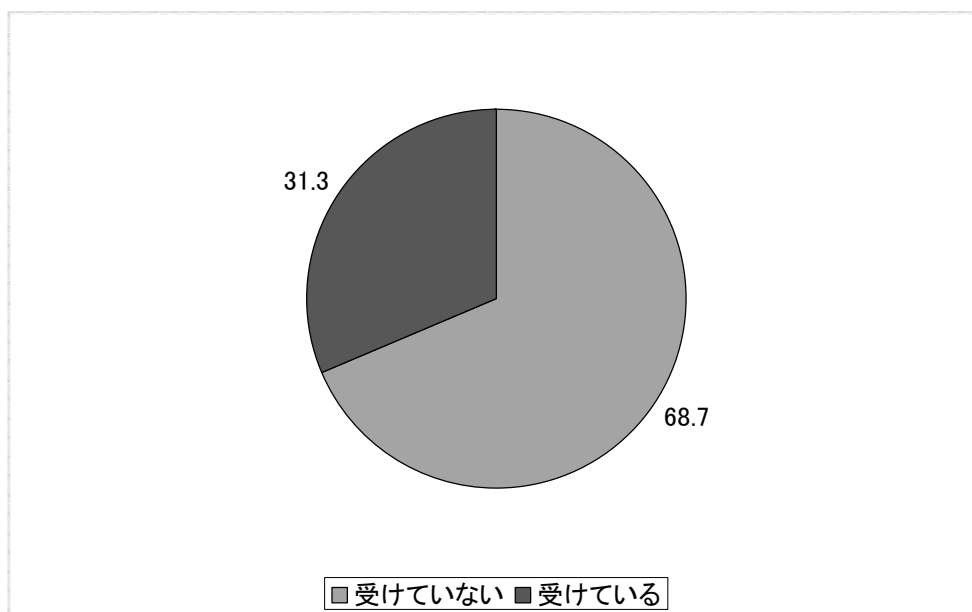
通っていた高校の設置主体の別を見ると、公立の高校に通っていたものの割合が 67.0% で最大のグループを形成している。また全体の 30.9%が私立の高校を卒業しており、少ない割合を占めている。

〔8 (2)〕 あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか(%)。

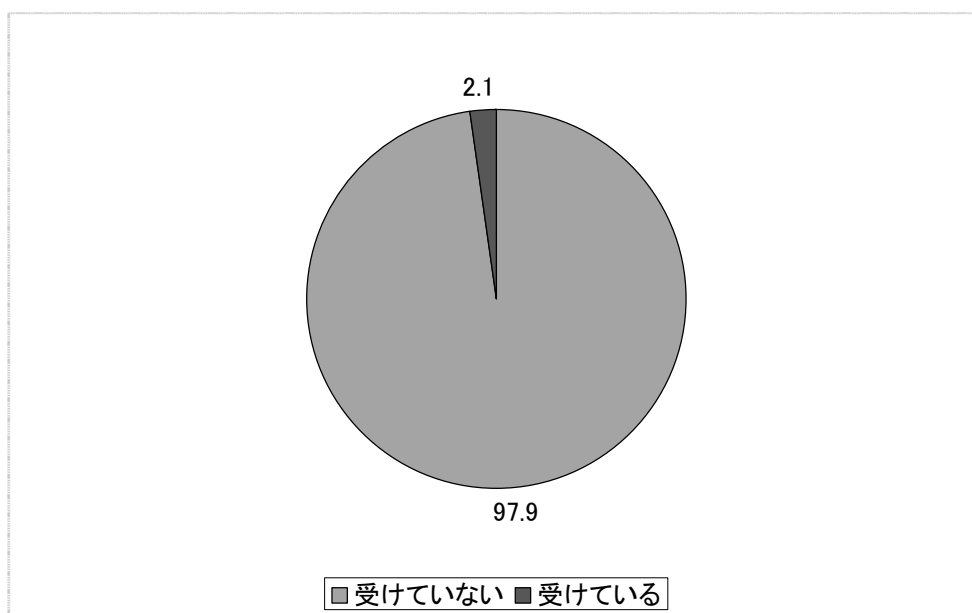


また、卒業した高校が共学であったか別学であったかを問うと、85.1%の回答者が共学であったと答えている。

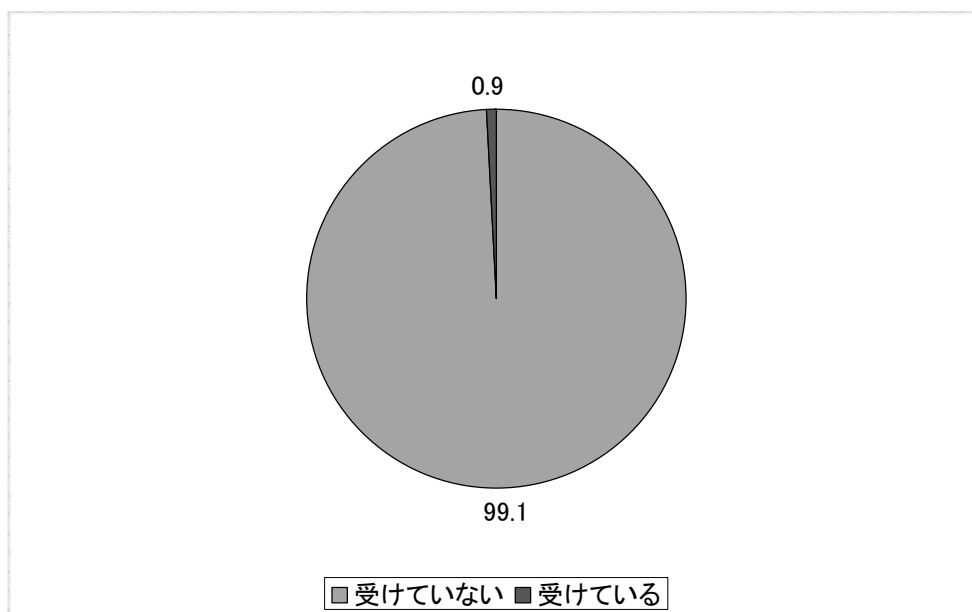
〔9 - 1〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(日本学生支援機構の奨学金) (%)。



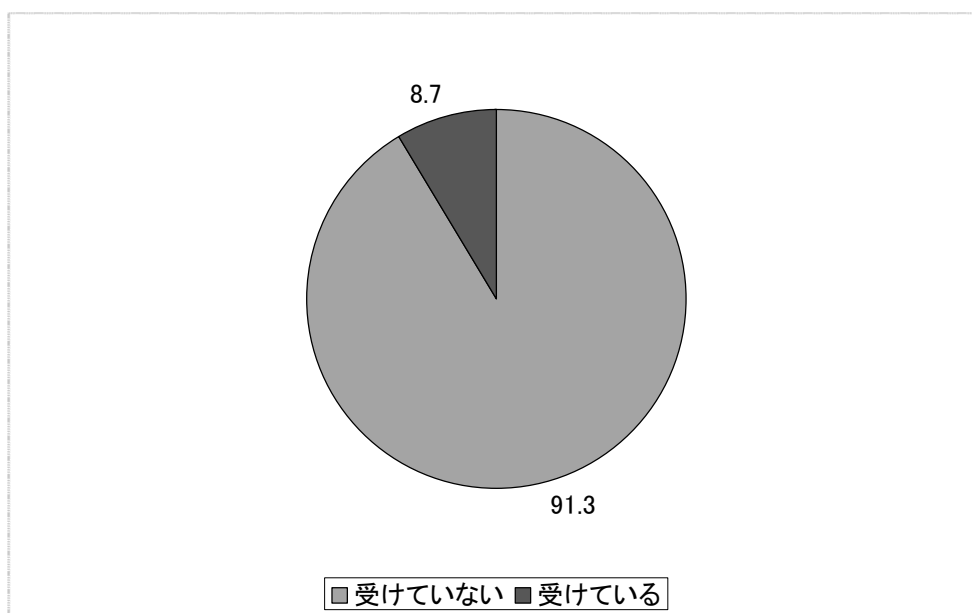
〔9 - 2〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(地方自治体の奨学金) (%)。



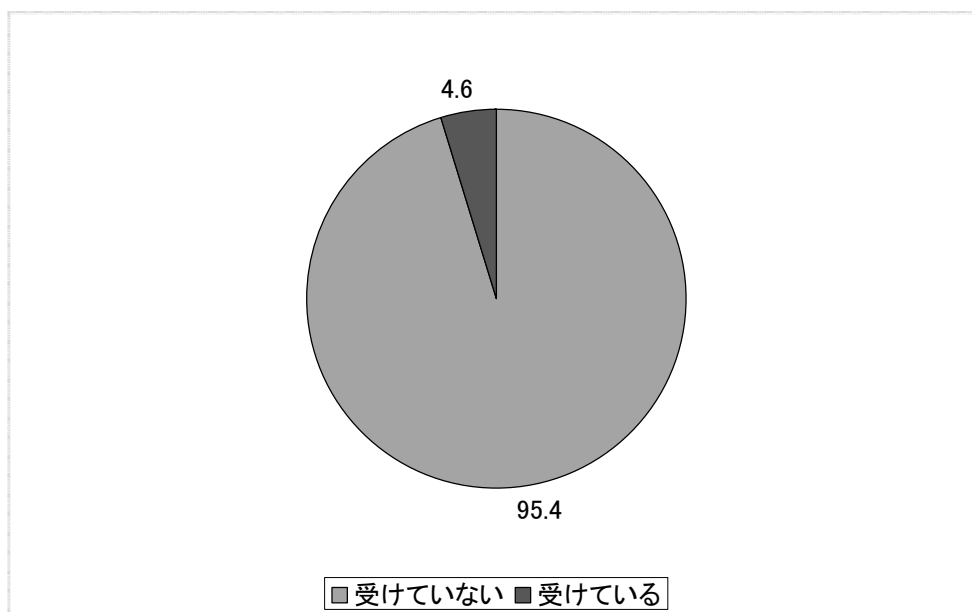
〔9 - 3〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(民間団体の奨学金) (%)



〔9 - 4〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(短大の奨学金や授業料免除) (%)。

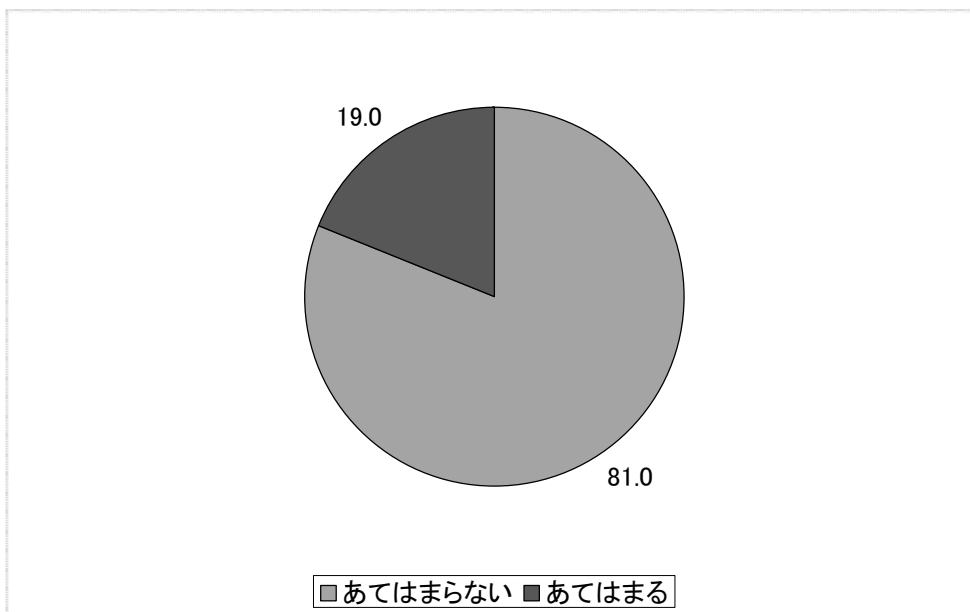


〔9-5〕あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(その他の経済的援助) (%)。

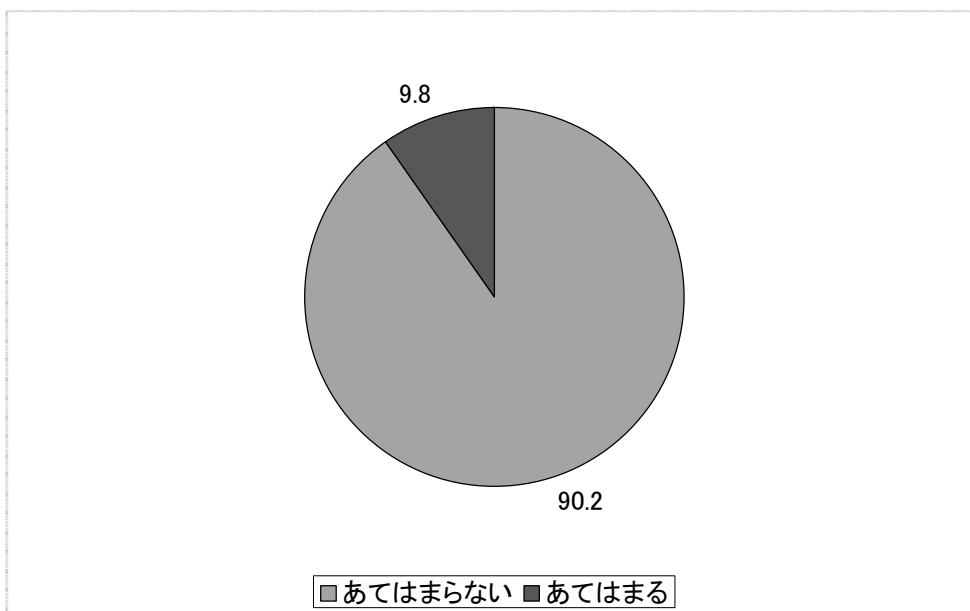


問 9 は学生が受け取っている経済的支援の状況について多肢選択の形式でたずねている〔9-1~9-5〕。受けていると回答した学生の割合がもっとも高いのは日本学生支援機構の奨学金で、全体のうち、31.3%の学生が奨学金を受け取っている。これに続き学生の 8.7%が短大の奨学金や授業料免除を、4.6%がその他の経済的援助を、2.1%が地方自治体の奨学金を、0.9%が民間団体の奨学金を、それぞれ給付ないし貸与の形態で受け取っている。

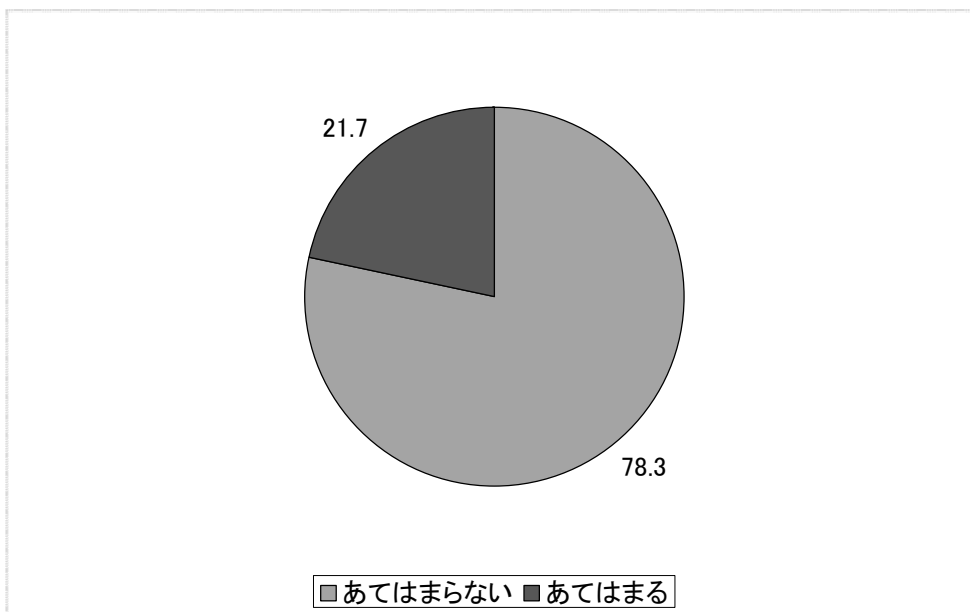
〔10 - 1〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(単位を取得できなかった授業があった) (%)。



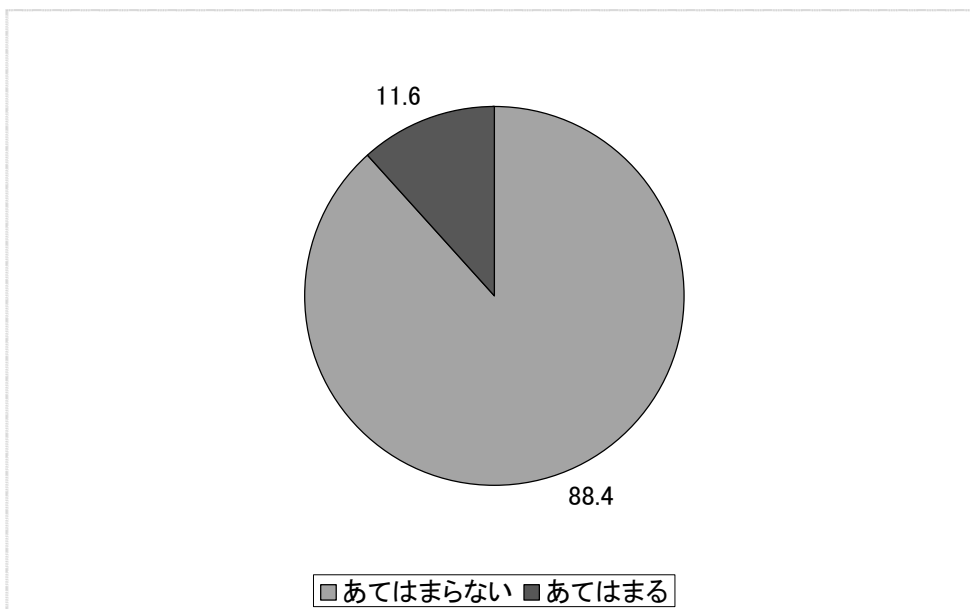
〔10 - 2〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(学力不足を補うため補習授業を履修した) (%)。



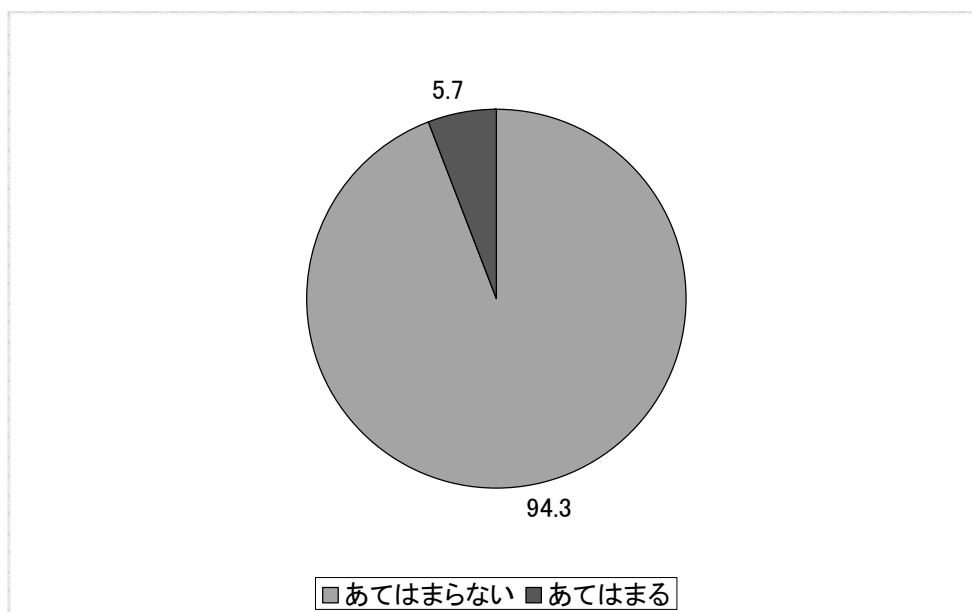
〔10 - 3〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(人権や民族に関する授業を履修した) (%)。



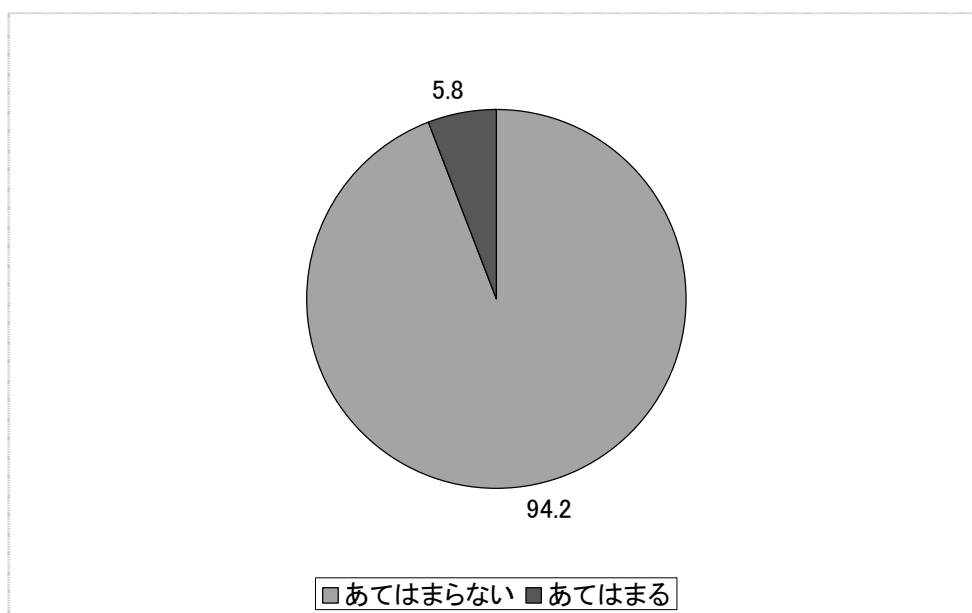
〔10 - 4〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(女性学の授業を履修した) (%)。



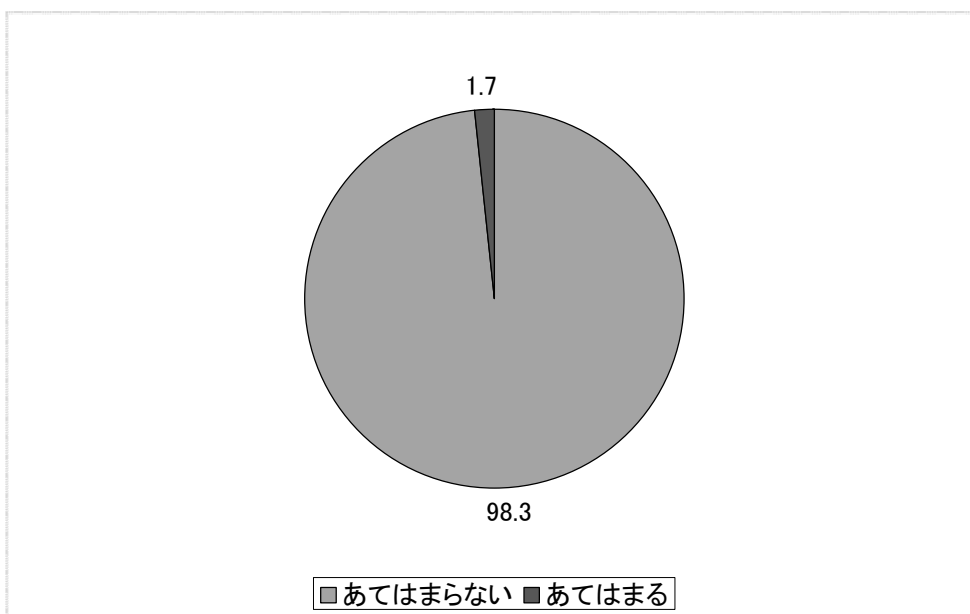
〔10 - 5〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した) (%)。



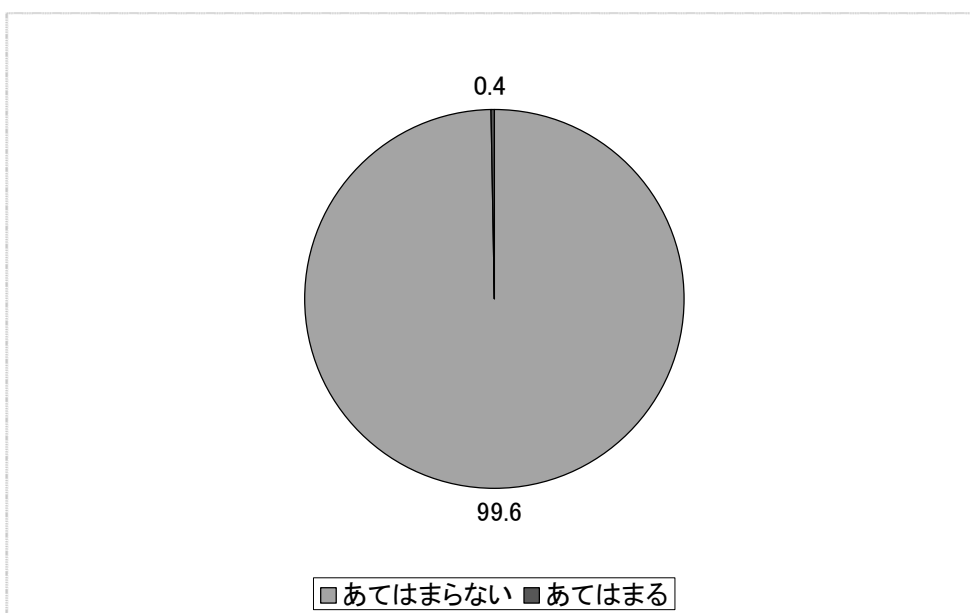
〔10 - 6〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(海外研修プログラムに参加した) (%)。



〔10 - 7〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した) (%)。



〔10 - 8〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(他の大学や短大、高等専門学校などから転学した) (%)。

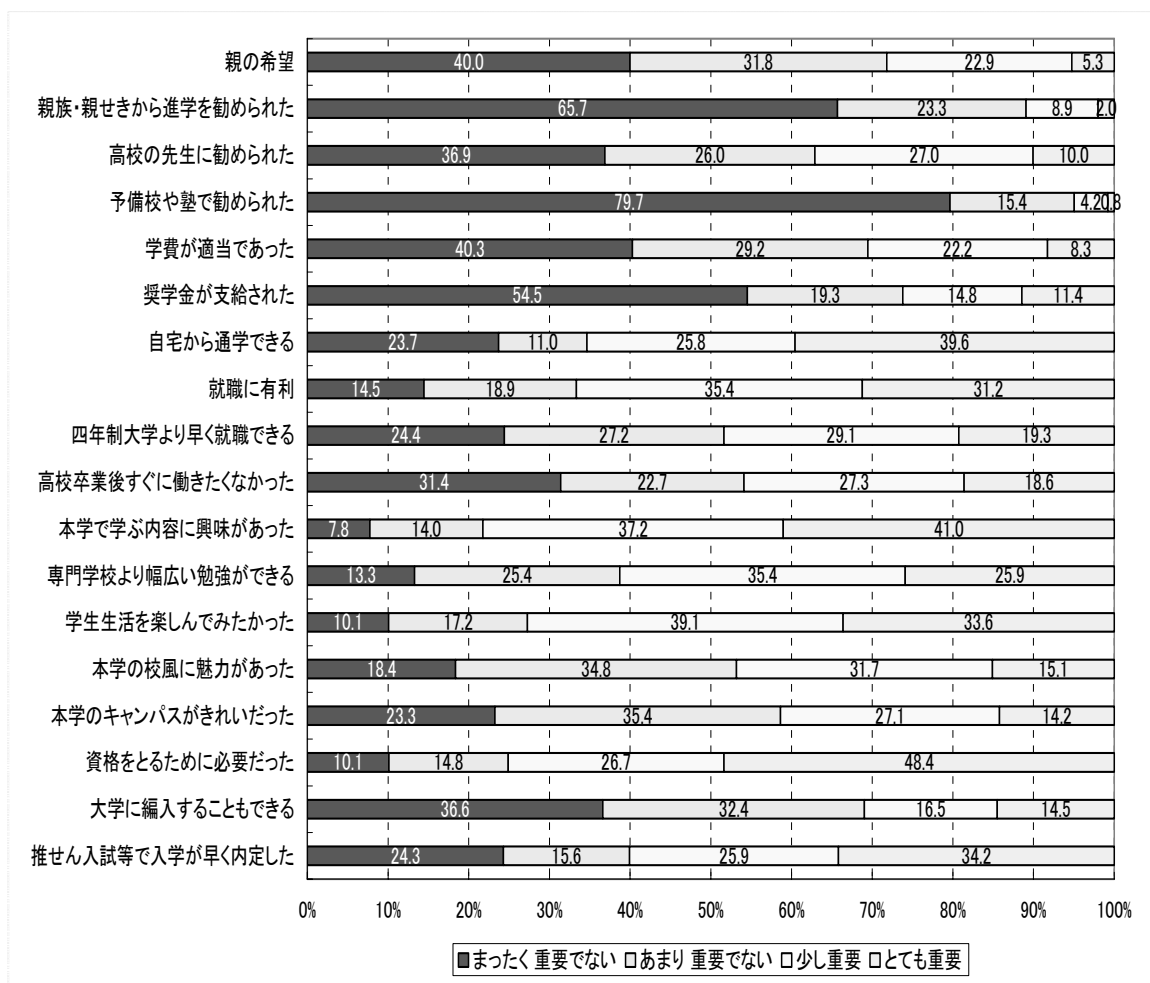


問 10 は対象者に短大に入学して以後、経験したことのある事柄を多肢選択で回答してもらう形式で聞いている〔10-1～10-8〕。全対象者のうち 19.0%が単位を所得できなかった授業があったと回答している。さらに学生の 9.8%は学力不足を補うための補習授業を履修し

た経験をもっている。その他、学内で提供される授業・プログラムに関する項目を見ていくと、人権や民族に関する授業を履修した学生が 21.7%、女性学の授業を履修した学生が 11.6%、それぞれ存在していることがわかる。学生のうち 5.7%はリーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した経験をもっている。

学外での学習活動に目を転じると、5.8%の学生は海外研修プログラムへの参加経験をもっている。また非常に少ない数ではあるが、1.7%の学生が他の学校機関で提供されている科目を履修し卒業単位に算入したと回答している。同じく数は少ないが、0.4%の学生は他の学校機関からの転入生であると回答している。

〔11〕 あなたが本学に進学した理由として、次のことがらはどの程度重要でしたか (%)。



問 11 では現在通っている学校への進学を決めた理由として、どのような事柄がどのくらい重視されたのかをたずねている。まず、親の希望や親族・親戚による進学の勧めを重視したとするものの比率は、それぞれ 5.3% (少し重要は 22.9%)、2.0% (少し重要は 8.9%) で、進学の決定因として血縁者の意見はそれほど重要視されていないことがわかる。予備校や塾での勧めが重要であったと答えるものも 0.8% (少し重要は 4.2%) にとどまっており、やはり低い。このようななか、高校の先生の勧めは回答者の 10.0% が重要と、また 27.0% が少し重要と答えている。周囲の大人からの勧めが重要な進学理由になることがあるとすれば、高校の先生の意見が採用される見込みがもっとも大きいと判断してよいだろう。

学費の面では、学費が適当であったことを進学の重要な理由と考えているものは 8.3% (少し重要は 22.2%) で、重要ではないとするものが多数派となっている。奨学金の支給が進学を決めるうえで重要であったとするものも 11.4% と少ない。直接的な学費負担にかかわる事柄が進学先を決める際に考慮すべき重要な要因として意識にのぼることは、あまりなさそうである。これに対して、自宅から通学できることを重要だと考えていたものは 39.6% (少

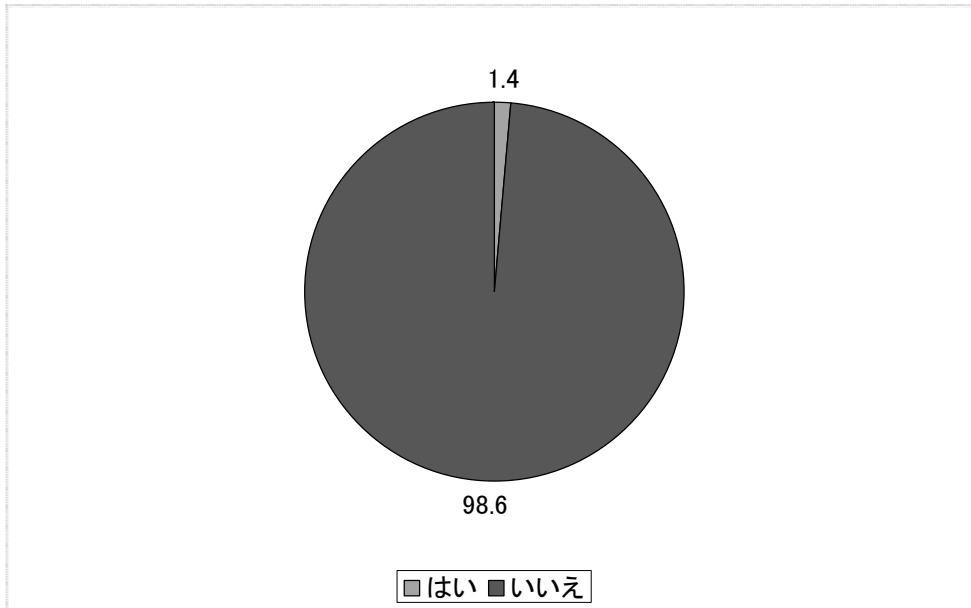
し重要は 25.8%)にのぼり、自宅から通学可能な圏内に位置している学校だということが、進学先として選ばれた重要な理由の 1 つとなっていることがわかる。

卒業後の進路と関係する事柄に関しては、多くの回答者が就職に有利であることを、現在の学校に進学した重要な理由であると回答している(重要が 31.2%、少し重要が 35.4%)。四年制大学よりも早く就職できることを重要な理由にあげるものも 19.3%存在し、進学先の決定理由として学校の手段的な利用可能性が一定程度、重要視されていると考えられる。その一方で、高校卒業後すぐに働きたくなかったことを重要な進学理由とするものも少なくない(重要が 18.6%、少し重要が 27.3%)。高卒後の学校継続を決める理由の 1 つに、一時的なモラトリアムを求める考え方が存在することをうかがわせる結果といえる。

学校で提供される教育については、41.0%のものが進学先の学校における学習内容への興味を重要な進学理由としてあげている。また、専門学校より幅広い勉強ができるということも重要だと考えていたものも 25.9%存在する。このほか、学生生活を楽しんでみたかった、校風に魅力があった、キャンパスがきれいだったといった事柄を一定割合の学生が進学を決める重要な理由であったと回答している(それぞれ重要の割合が 33.6%、15.1%、14.2%)。学校で学ぶ教育内容やキャンパス・ライフへの期待は、進学のも動機としてそれなりに重要な位置を占めていると考えられる。

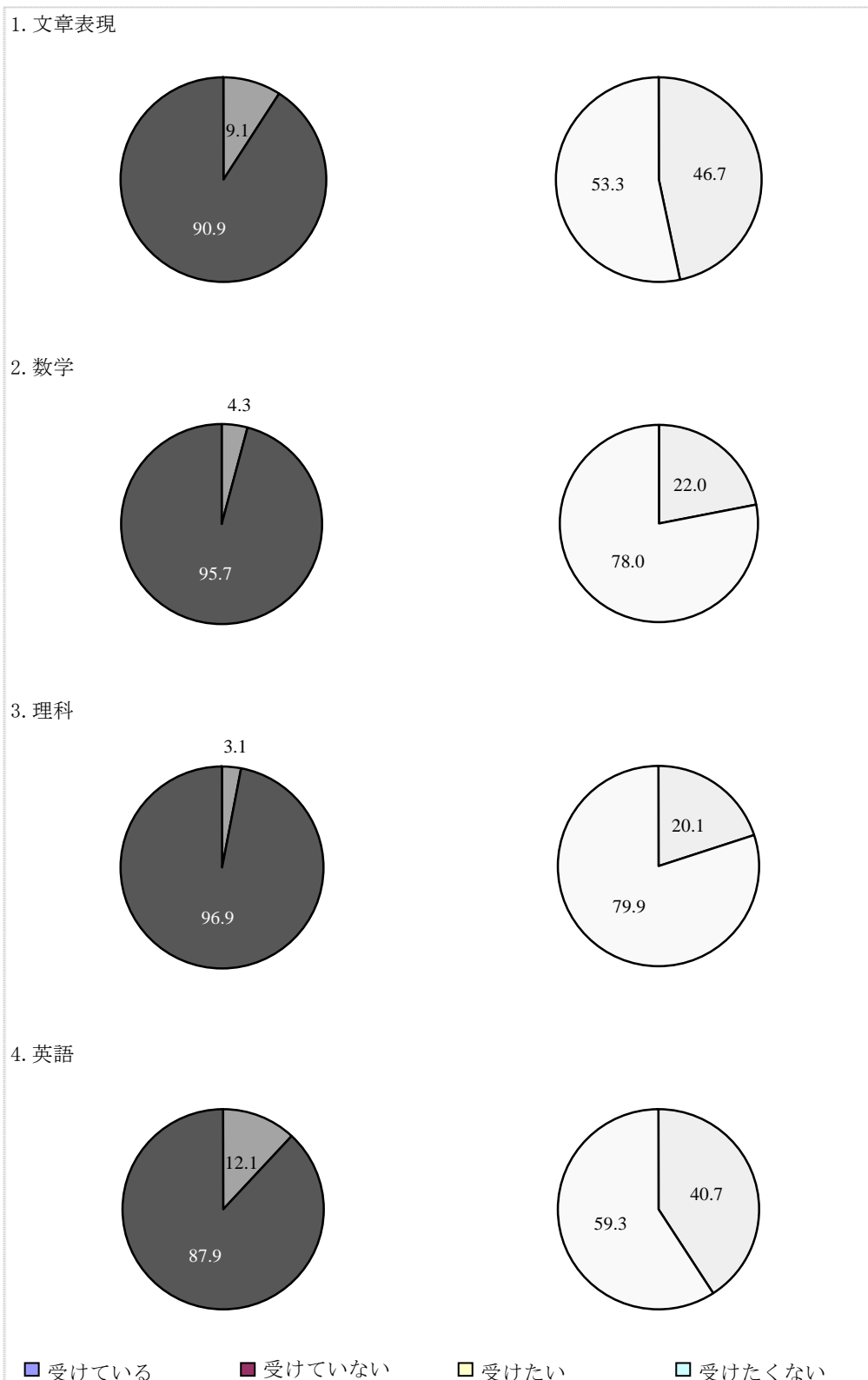
また回答者のうち 48.4%というかなり多くのものが、資格をとるために進学する必要があったことを、進学先決定の重要な理由であったと回答している。さらに全体の約 3 割(重要が 14.5%、少し重要が 16.5%)が大学に編入できる可能性があることを、重要な進学理由として考えていたことがわかる。このほか推薦入試によって早い時期に進路を確保できたことも、進学先として現在の学校が選ばれた重要な理由になっているようである(重要が 34.2%、少し重要が 25.9%)。

〔12〕 あなたは留学生ですか (%)。



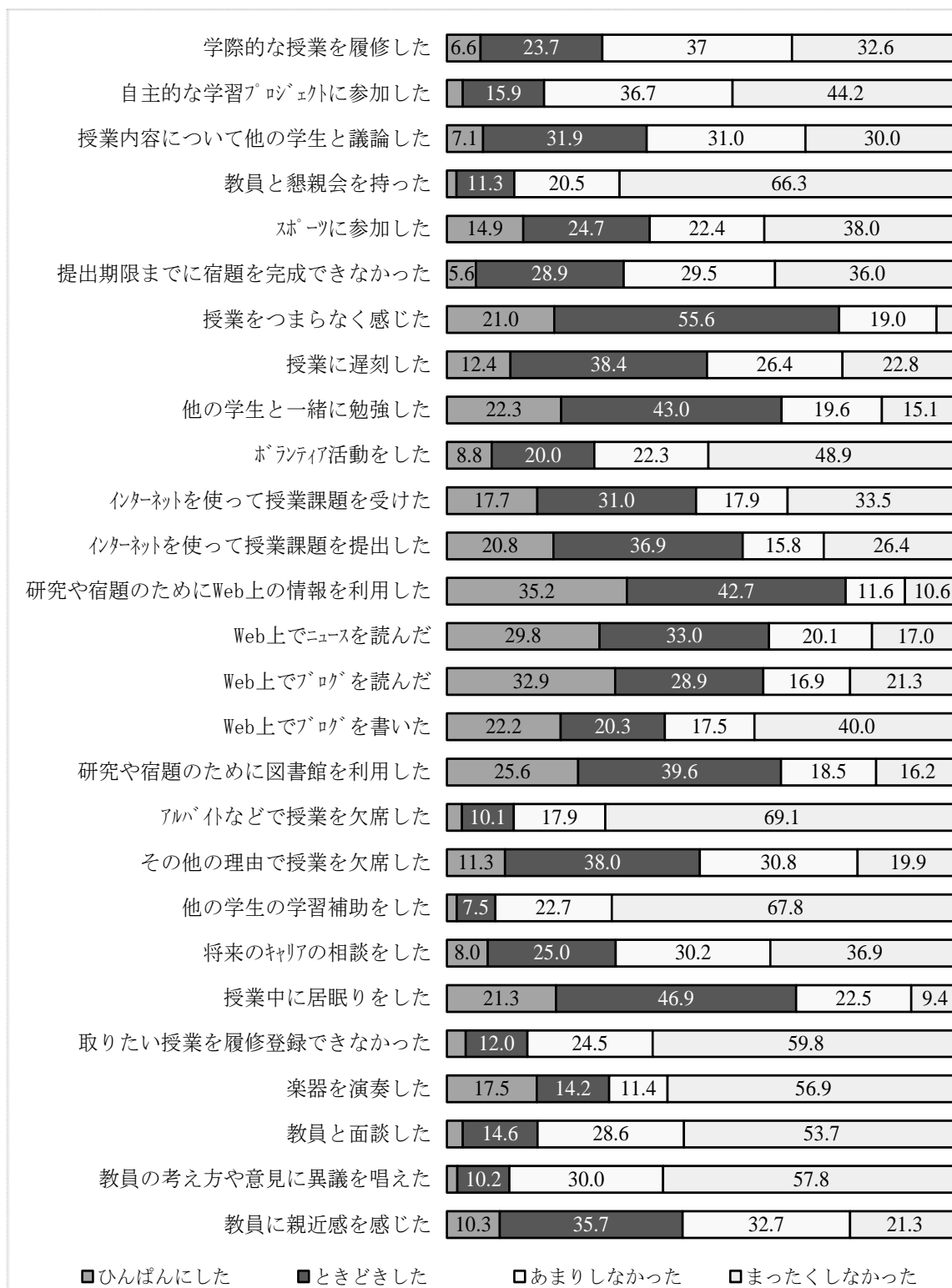
回答者のうち、留学生に該当するものは1.4%である。

〔13〕 あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。



問 13 は、現在受けている学習支援の科目と、それぞれの科目の学習支援を希望しているかについて問うた項目である。結果をみると、特別な学習支援を受けている人の割合はどの科目においてもそれほど高くない。なかでも割合が最も大きい科目は、12.1%の英語であり、つづいて文章表現が 9.1%の高い割合を示している。数学や理科の学習支援を受けている学生はそれぞれ 5%以下と非常に小さい割合を示している。しかし、学習支援を受けたい科目をみると、最も少ない割合を示している科目である理科でも 20.1%の人が学習支援を受けたいと答えており、最も割合の大きい文章表現においては、ほぼ半数の人が学習支援を受けたいと答えている。これらの結果から現在の学習支援が学生のニーズを満たしていない傾向にあると考えられる。

〔14〕 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。



問 14 は、入学してから行ったさまざまなことについて聞いている。これらの質問項目は

大きく、授業履修、授業の態度および授業の感想、他の学生との交流、教員との関係、課外活動、インターネットの利用状況の6つに分けることができる。

では、まず授業履修についての項目からみてみよう。「23 取りたい授業を履修登録できなかった」では、「ひんぱんにした」が3.7%、「ときどきした」が12.0%、「あまりしなかった」が24.5%となっており、約4割の人が履修登録できなかった経験があることがわかる。また、約7割の人は「1 学際的な授業を履修した」ことがある。

次に、授業の態度および授業の感想についての項目をみていこう。まず、授業の面白さについて聞いた「7 授業をつまらなく感じた」の結果をみると、「ひんぱんにした」と「ときどきした」と答えている人が全体の76.6%を占めている。授業に対して面白さをあまり感じない割合が高い。そして、欠席について問うた項目である「18 アルバイトなどで授業を欠席した」と「19 その他の理由で授業を欠席した」をみると、アルバイトのために授業を欠席する人はそれほどいないが、その他の理由で「ときどき」または「ひんぱんに」授業を欠席している人が全体の49.3%となっている。また、「ときどき」または「ひんぱんに」に「8 授業に遅刻した」人も全体の50.8%となっており、約半数の人が授業によく遅刻していることがわかる。「22 授業中に居眠りをした」の質問に対しては、21.3%の人が「ひんぱんにした」と、46.9%の人が「ときどきした」と答えている。また「6 提出期限までに宿題を完成できなかった」ことがある人の割合は、全体の34.5%となっている。最後に「17 研究や宿題のために図書館を利用した」ことがある人は全体の25.6%であるが、研究や宿題のために図書館を利用したことがまったくない人も全体の16.2%と少なくはない。

つづいて他の学生との交流についての項目をみてみよう。まず「9 他の学生と一緒に勉強した」では、「ひんぱんにした」と答えている人が22.3%、「ときどきした」と答えているひとが43.0%であり、多くの学生が他の学生と一緒に勉強していることがわかる。また、約半数の人が「2 自主的な学習プロジェクトに参加した」経験がある。「20 他の学生の学習補助をした」人はそれほど多くなかった。

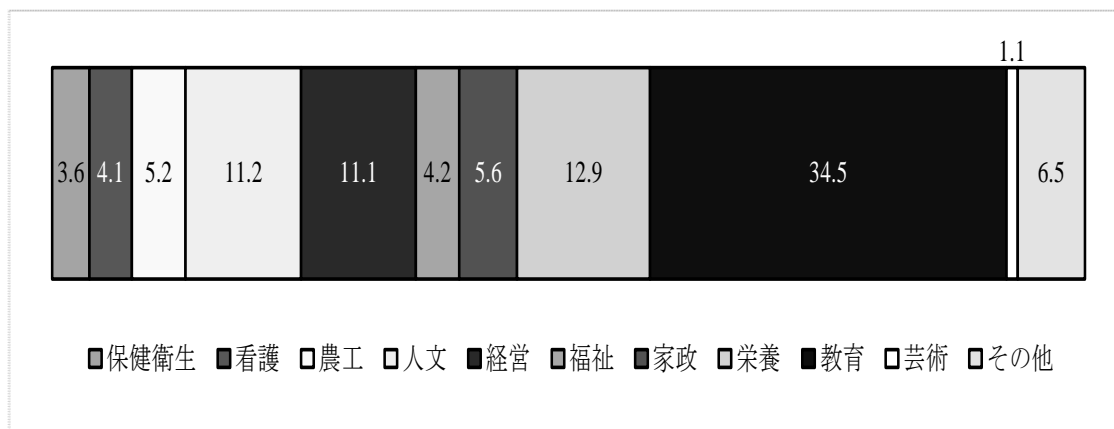
教員との関係を示す項目のなかで、「27 教員に親近感を感じた」の間では、「ひんぱんにした」が10.3%、「ときどきした」が35.7%、「あまりしなかった」が32.7%、「まったくしなかった」が21.3%となっている。約半数は親近感をあまり感じない傾向にあるのである。ところで「4 教員と懇親会を持った」ことや「25 教員と面談した」ことのある人の割合はそれほど高くなく、「26 教員の考え方や意見に異議を唱えた」人もあまり多くない。おそらく、このように授業内外のどちらにおいても学生と教員のコミュニケーションが少ないことが、親近感を感じない人の割合が大きくなっている原因であろう。

授業以外の課外活動についての項目をみると、「5 スポーツに参加した」ことが「まったく」ない人が38.0%であり、「24 楽器を演奏した」ことが「まったく」ない人は56.9%であった。「10 ボランティア活動をした」の間に対しては、「ひんぱんにした」が8.8%、「ときどきした」が20.0%、「あまりしなかった」が22.3%、「まったくしなかった」が48.9%となっている。ひんぱんにボランティア活動に参加する人はそれほど多くないが、半数以

上の人はボランティア活動に参加したことがある。

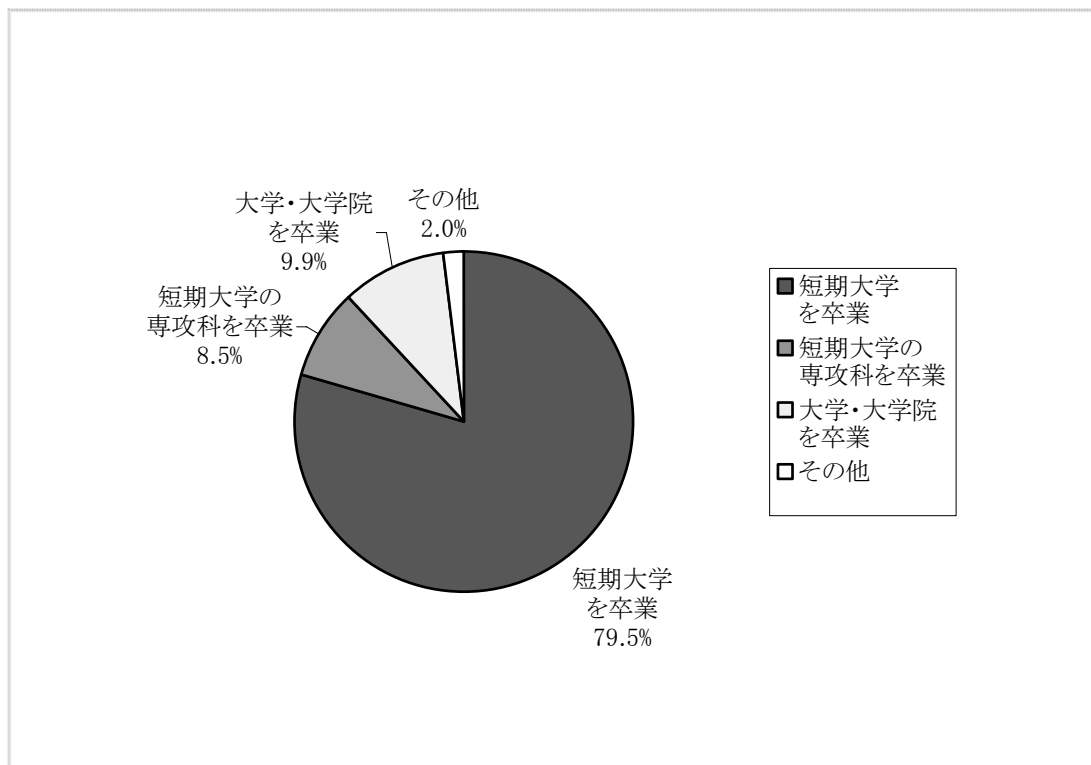
最後に、インターネットの利用状況に関する項目をみてみよう。まず「11 インターネットを使って授業課題を受けた」ことや「12 インターネットを使って授業課題を提出した」ことがある人は全体の 7 割程度である。多くの授業でインターネットを利用して課題を提出したり、学生にそれを提出することを求めているといえる。「13 研究や宿題のために Web 上の情報を利用した」の問においては、「ひんぱんにした」が 35.2%、「ときどきした」が 42.7%であり、多くの学生がインターネットを利用して、研究や宿題をしていることがわかる。そして、「14 Web 上でニュースを読んだ」り、「15 Web 上でブログを読んだ」りしている人が約 8 割を占めている。また、約 6 割の人が自分で「16 Web 上でブログを書いた」ことがあると答えている。

〔15〕あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。



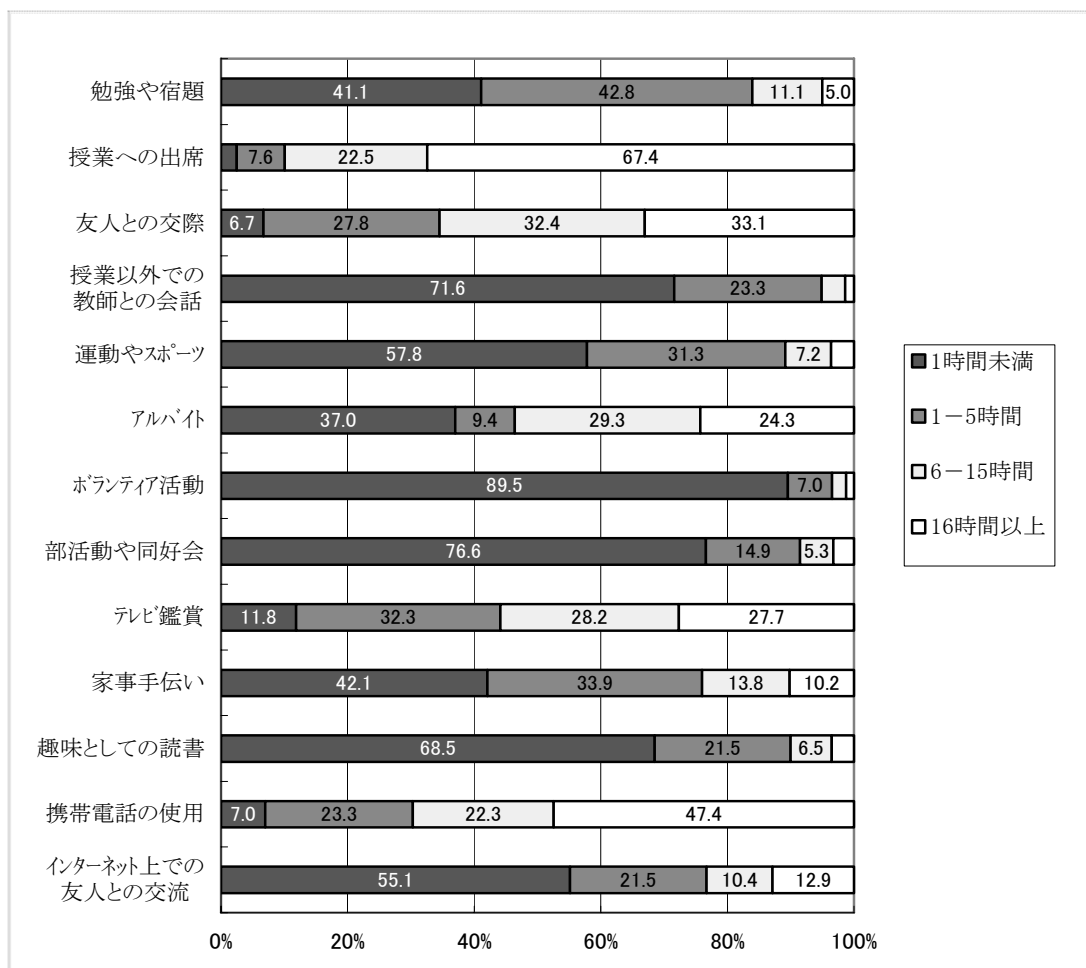
問 15 の専攻する専門分野は、教育が 34.5%と最も高い割合を占めている。その次に栄養が 12.9%、人文が 11.2%、経営が 11.1%、家政が 5.6%、農工が 5.2%、福祉が 4.2%、看護が 4.1%、保健衛生が 3.6%となっている。

〔16〕 あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。



短期大学を卒業するまでという回答が 79.5%で圧倒的に多く、短期大学の専攻科、大学・大学院への進学を考える者は共に 10%弱となっている。

〔17〕 あなたは今年度、次の活動に一週間あたりどれくらい時間を費やしましたか。



		0 時 間	1 時 間 未 満	1 2 時 間	3 5 時 間	6 10 時 間	11 15 時 間	16 20 時 間	20 時 間 以 上	合 計	無 回 答
勉強や宿題	度数	740	2201	1762	1304	578	214	112	246	7157	62
	パーセント	10.3	30.8	24.6	18.2	8.1	3.0	1.6	3.4	100.0	
授業への出席	度数	80	95	155	383	722	855	1133	3643	7066	153
	パーセント	1.1	1.3	2.2	5.4	10.2	12.1	16.0	51.6	100.0	
友人との交際	度数	151	322	613	1357	1418	875	640	1699	7075	144
	パーセント	2.1	4.6	8.7	19.2	20.0	12.4	9.0	24.0	100.0	
授業以外での 教師との会話	度数	1233	3850	1139	519	191	72	37	61	7102	117
	パーセント	17.4	54.2	16.0	7.3	2.7	1.0	0.5	0.9	100.0	
運動やスポーツ	度数	1861	2231	1444	775	372	139	72	185	7079	140
	パーセント	26.3	31.5	20.4	10.9	5.3	2.0	1.0	2.6	100.0	
アルバイト	度数	2491	136	129	542	1033	1050	774	952	7107	112
	パーセント	35.0	1.9	1.8	7.6	14.5	14.8	10.9	13.4	100.0	
ボランティア活動	度数	5629	709	293	201	117	42	27	60	7078	141
	パーセント	79.5	10.0	4.1	2.8	1.7	0.6	0.4	0.8	100.0	
部活動や同好会	度数	4922	504	548	504	254	119	63	169	7083	136
	パーセント	69.5	7.1	7.7	7.1	3.6	1.7	0.9	2.4	100.0	
テレビ鑑賞	度数	275	564	846	1445	1221	779	553	1411	7094	125
	パーセント	3.9	8.0	11.9	20.4	17.2	11.0	7.8	19.9	100.0	
家事手伝い	度数	1094	1898	1374	1037	650	330	191	533	7107	112
	パーセント	15.4	26.7	19.3	14.6	9.1	4.6	2.7	7.5	100.0	
趣味としての読書	度数	3265	1590	876	646	320	141	76	174	7088	131
	パーセント	46.1	22.4	12.4	9.1	4.5	2.0	1.1	2.5	100.0	
携帯電話の使用	度数	80	417	612	1039	919	662	550	2816	7095	124
	パーセント	1.1	5.9	8.6	14.6	13.0	9.3	7.8	39.7	100.0	
インターネット上での 友人との交流	度数	2670	1269	815	724	464	282	235	684	7143	76
	パーセント	37.4	17.8	11.4	10.1	6.5	3.9	3.3	9.6	100.0	

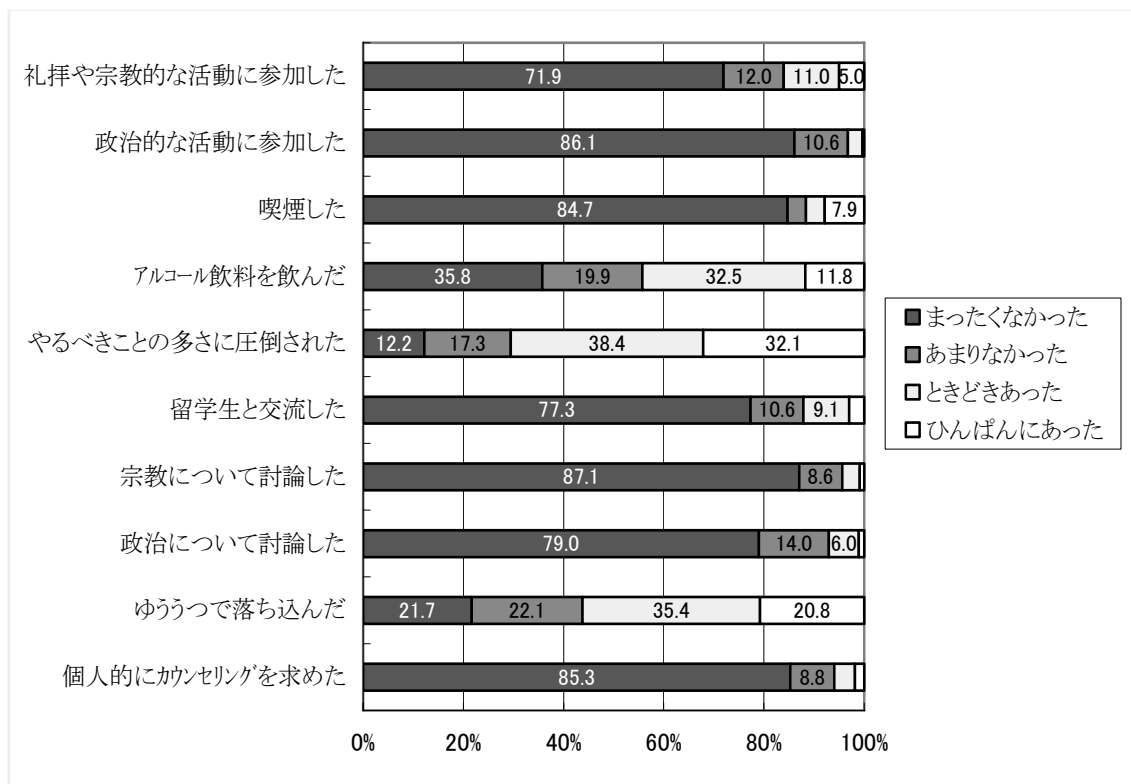
まず、勉強や授業、読書に関して。勉強や宿題に費やす時間は、週1時間未満の者が30.8%でもっとも多い。次いで1~2時間が24.6%である。勉強や宿題に全く時間を費やさない者は全体の約1割である。授業に関しては、週20時間以上の者が51.6%で、もっとも多い。16~20時間が全体の16%であり、時間数が減るにつれ該当者は少なくなる。授業に費やす時間は多いものの、授業以外で教師と会話する時間は少なく、半分以上の学生(54.2%)はそのような時間を週1時間ももっていない。まったく教師と会話のない者も17.4%いる。趣味としての読書については、まったく読書をしない者が46.1%でもっとも多い。1時間未満が22.4%、1~2時間が12.4%となっている。

次に友人関係、アルバイト、部活・同好会、ボランティアなどに関してみていこう。友人との交際に使う時間は20時間以上がもっとも多く、全体の24%がこの回答を選択している。次に多いのは6~10時間で、全体の20%。アルバイトに関しては、まったくアルバイトをしていない者が35%でもっとも多い。次に6~10時間、11~15時間費やす者が共に15%程、週20時間アルバイトをしている者も13.4%いる。部活や同好会活動に関しては、

全体の 7 割がそのような活動に全く時間を費やしていない。ボランティア活動に関しても同様で、全体の約 8 割がボランティアを全くおこなっていない。運動やスポーツに費やす時間は、1 時間未満が 31.5%、まったく運動をしない人が 26.3%、1~2 時間が 20.4%で、全体の約 8 割が 0~2 時間程度運動に費やしている。家事手伝いに関しては、週 1 時間未満の者がもっとも多く、全体の 26.7%。1~2 時間が 19.3%で、まったく家事手伝いをしない人は、全体の 15.4%であった。

最後にテレビ、携帯電話、インターネットに関してみる。テレビ観賞に費やす時間は、3~5 時間、20 時間以上がもっとも多く、共に約 20%である。携帯電話に関しては 20 時間以上使用する者がもっとも多く、全体の約 40%である。次に多いのは 3~5 時間で、全体の 14.6%である。テレビと携帯電話に関しては、それらに 20 時間以上費やすヘビー・ユーザーと 3~10 時間ほどの中程度の利用者に分かれているといえる。インターネットで友人との交流に費やす時間は、0 時間の者が 37 パーセントでもっとも多く、次に多いのは 1 時間未満 (17.8%) となっている。

[18] あなたは今年度次のことがらをどの程度経験しましたか。



まず、政治と宗教についてみていこう。礼拝や宗教的活動、および宗教についての討論は、まったくしなかった者がそれぞれ 71.9%、87.1%と圧倒的に多い。政治に関しても同

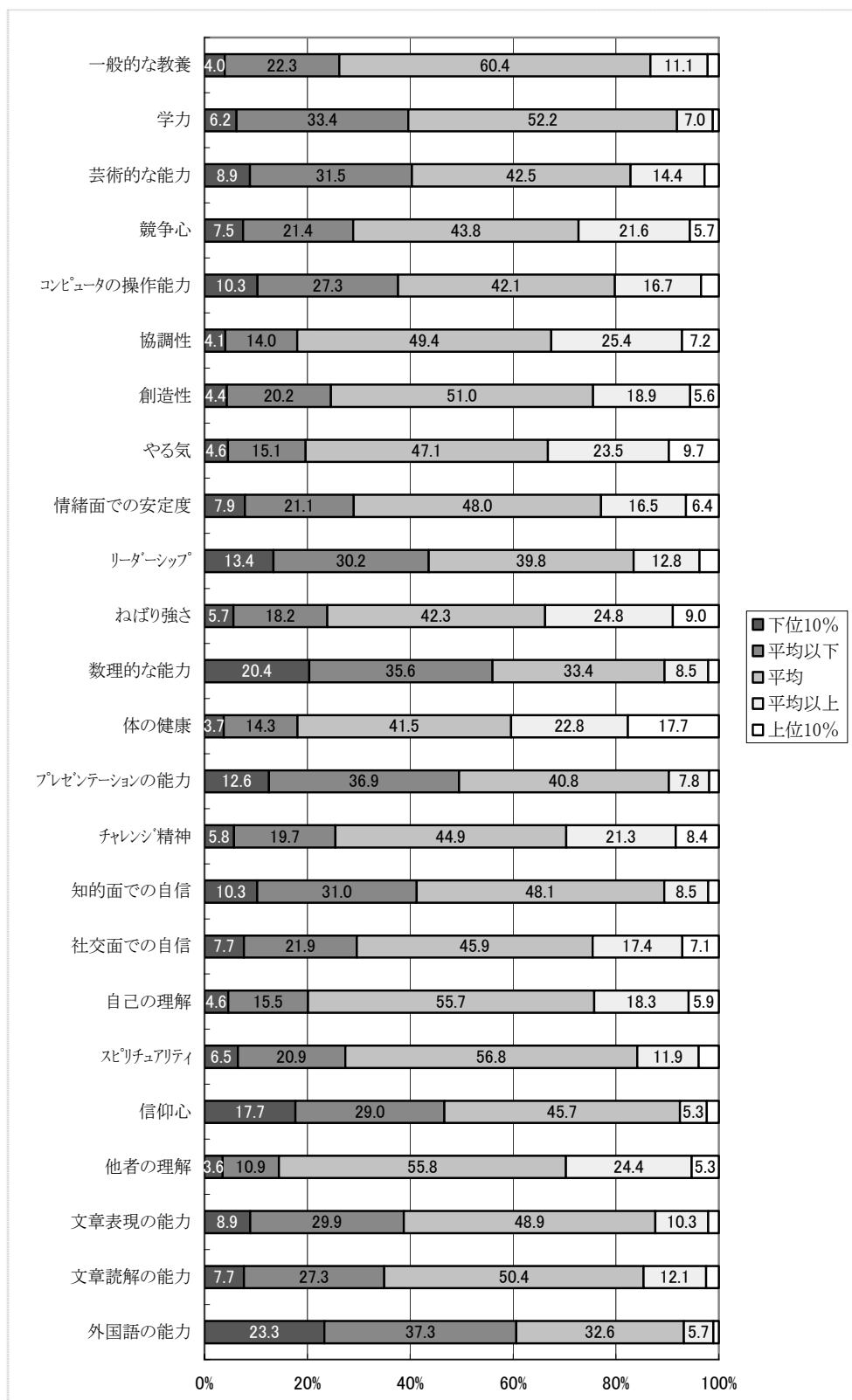
様で、政治的活動、および政治についての討論をまったくしなかった者は、それぞれ 86.1%、79%である。

次に喫煙と飲酒について。喫煙に関しては、たばこをまったく吸わなかった者が 84.7%と圧倒的に多い。飲酒経験に関しても、もっとも多いのは「まったくなかった」の 35.8%で、「ときどきあった」(32.5%) がそれにつづく。

留学生との交流に関しては、77.3%の学生が「まったくなかった」と回答している。

最後に学生の心理的負担に関して。やるべきことの多さに圧倒されることが「ときどきあった」と回答した者は 38.4%でもっとも多く、「ひんぱんにあった」(32.1%) がそれにつづく。また、ゆううつで落ち込んだ経験に関しても、もっとも多いのは「ときどきあった」(35.4%) であった。落ち込んだ経験が「ひんぱんにあった」と回答した者は 20.8%であった。半数以上の学生がゆううつで落ち込む経験をときどき、あるいはひんぱんにしているという結果である。ただ、一度でもカウンセリングを求めた経験がある者は全体の約 15%に過ぎず、85.3%はそのような経験をまったくしていなかった。

〔19〕あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。



全体的な傾向として、どの項目に対しても「平均」と回答する者がもっとも多い。例外は数理的な能力と外国語の能力だけで、これらの 2 項目は「平均以下」と回答する者がもっとも多い（数理的な能力は 35.6%、外国語の能力は 37.3%）。ただこれらの 2 項目に関しても 2 番目に多い回答は「平均」であり、ともに全体の約 33%である。

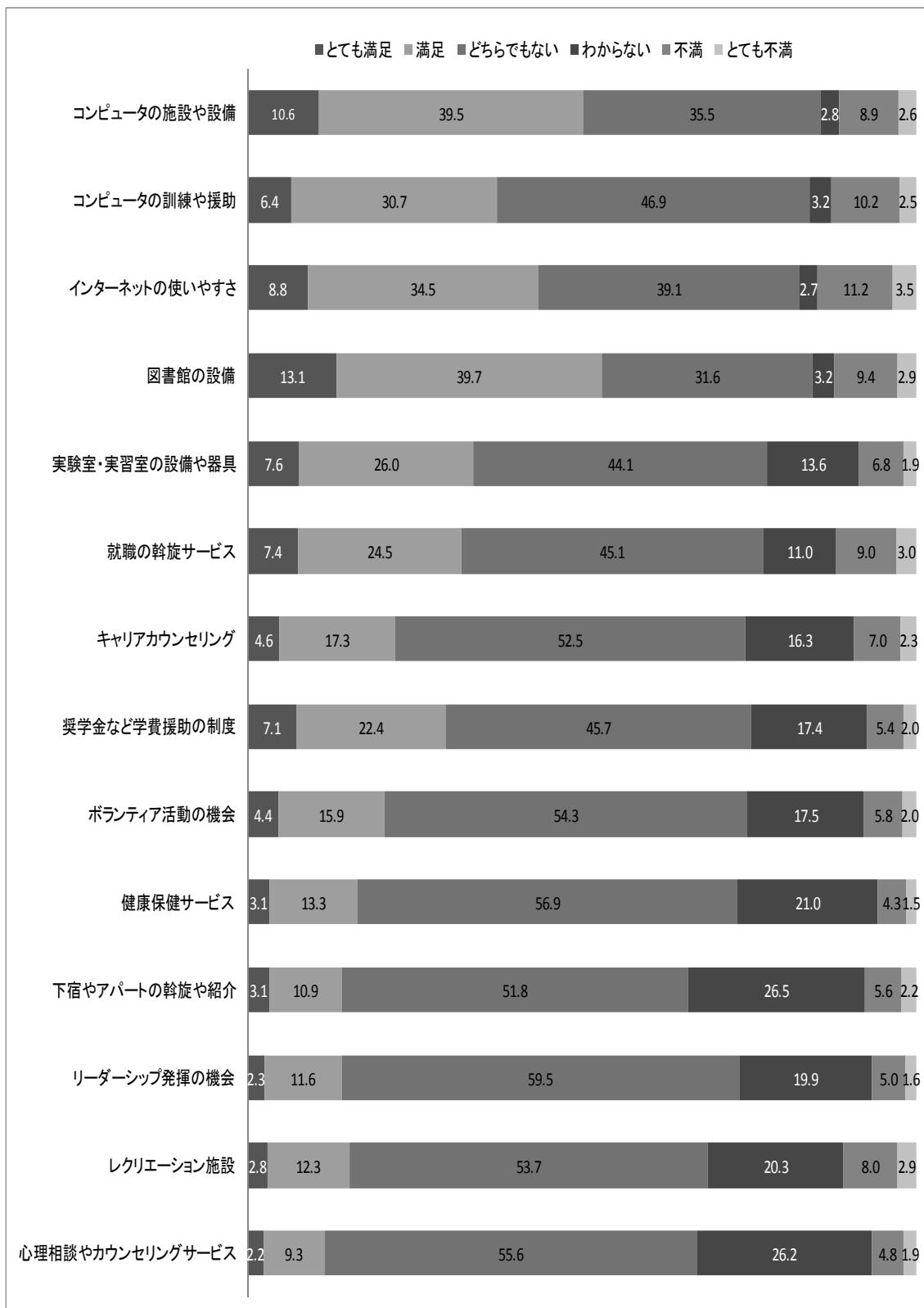
個別に項目を見ていくと、大まかな分布の形状をもとに各項目を 3 つのグループに分類することができる。

1 つ目のグループは、「平均」にもっとも回答が集まり、平均から離れるにしたがって該当者が少なくなるという、正規分布に近い分布をしている項目群である。これに該当する項目は、競争心、創造性、情緒面での安定度、ねばり強さ、チャレンジ精神、社交面での自信、自己の理解、である。

2 つ目のグループは、おおよそ「平均」に回答の中心がありながら、「平均以下」にも多くの回答が集まり、分布がマイナスに偏っている項目群である。これに該当するのは、一般的な教養、学力、芸術的な能力、コンピュータの操作能力、リーダーシップ、数理的な能力、プレゼンテーションの能力、知的面での自信、スピリチュアリティ、信仰心、文章表現の能力、文章読解の能力、外国語の能力、である。

3 つ目のグループは、「平均」を分布の中心としつつ、「平均以上」にも多くの回答が集まり、分布がプラスに偏っている項目群である。これに該当するのは、協調性、やる気、体の健康、他者の理解、である。

[20] あなたは、本学のつぎのことがらに、どの程度満足していますか。(%)

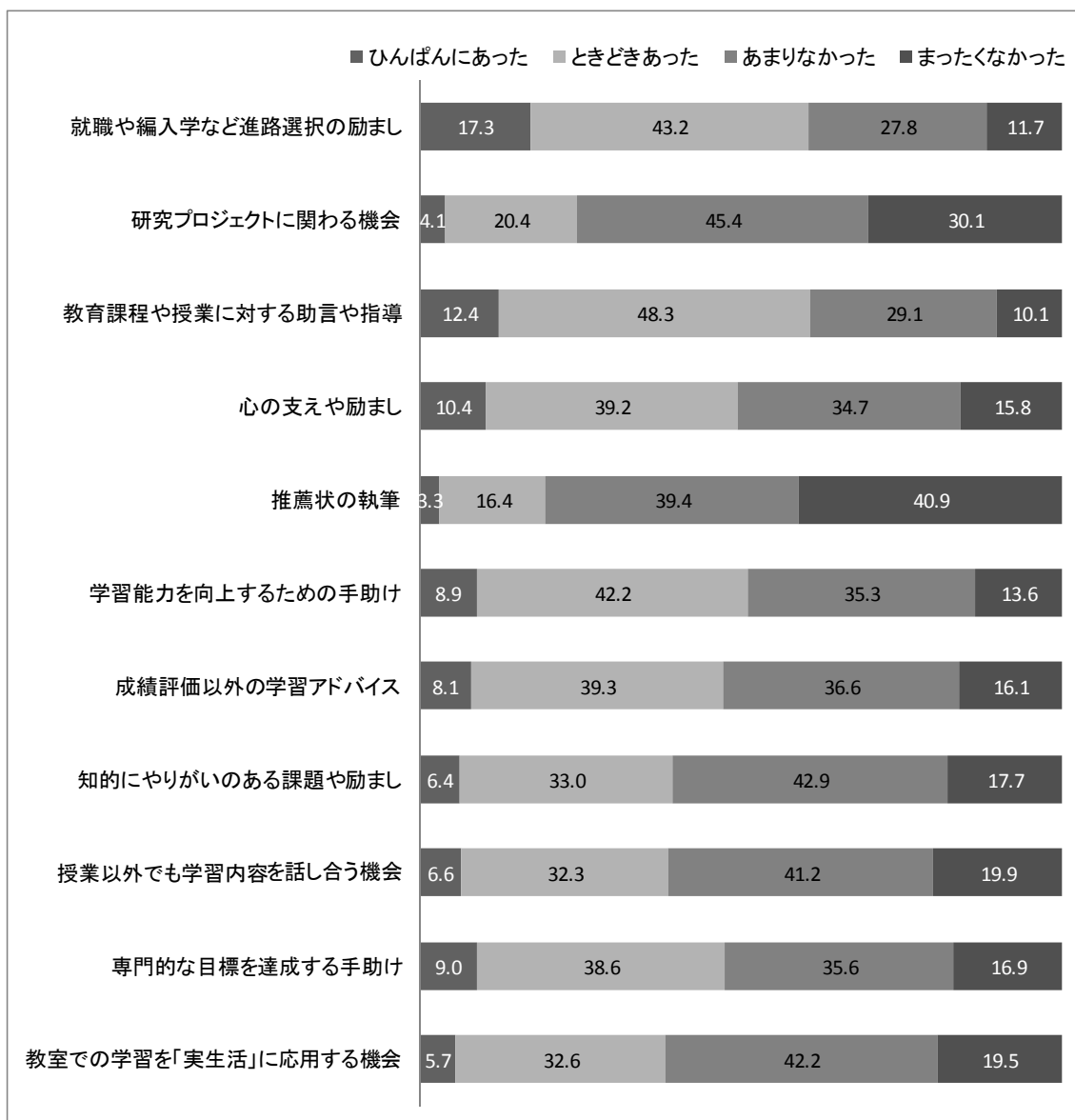


短大での教育や学生のキャンパス・ライフを支える設備や支援制度に対する短大生の満足度はどのようになっているのか。上の図は短大の設備や学生支援制度に関する満足度を尋ねた質問に対する回答分布を示したものである。なお、以下の項目内容の横にある括弧内の数値は、「とても満足」と「満足」の合計割合である。

短大の設備や学生支援制度について半数以上の学生が満足していると回答した項目は、「図書館の設備」(52.8%)と「コンピュータの設備や整備」(50.1%)である。これに「インターネットの使いやすさ」(43.3%)と「コンピュータの訓練や援助」(37.1%)が続いている。多くの学生が日常的に使用する設備や施設に関して、特に情報ネットワーク関連設備に関して、多くの学生が満足していることがわかる。ただし、これら4つの項目において、約1割の学生が現状の設備や支援を不満に感じている。

上記の項目群とは別に、特定の学生しか利用しない設備や支援制度については、満足でも不満でもない中間回答の「どちらでもない」や判断不可の「わからない」といった回答が多くなっている。「実験室・実習室の設備や器具」に満足している学生は33.6%、「就職の斡旋サービス」が31.9%、「奨学金など学費援助の制度」は29.5%、「キャリアカウンセリング」は21.9%、「ボランティア活動の機会」は20.3%となっているが、中間回答や判断不可回答をした学生が全体の6~7割を占めている。これ以外の項目においても、同様の傾向がみられる。このような回答傾向になる背景として、単に学生が利用していないか、もしくは学生が望む支援制度を短大側が整備しきれていないか、また整備していても学生へのアナウンスが不十分であるといった可能性が考えられる。

[21] 本学の短大教員は、あなたに次の活動をどのくらい提供しましたか。(%)



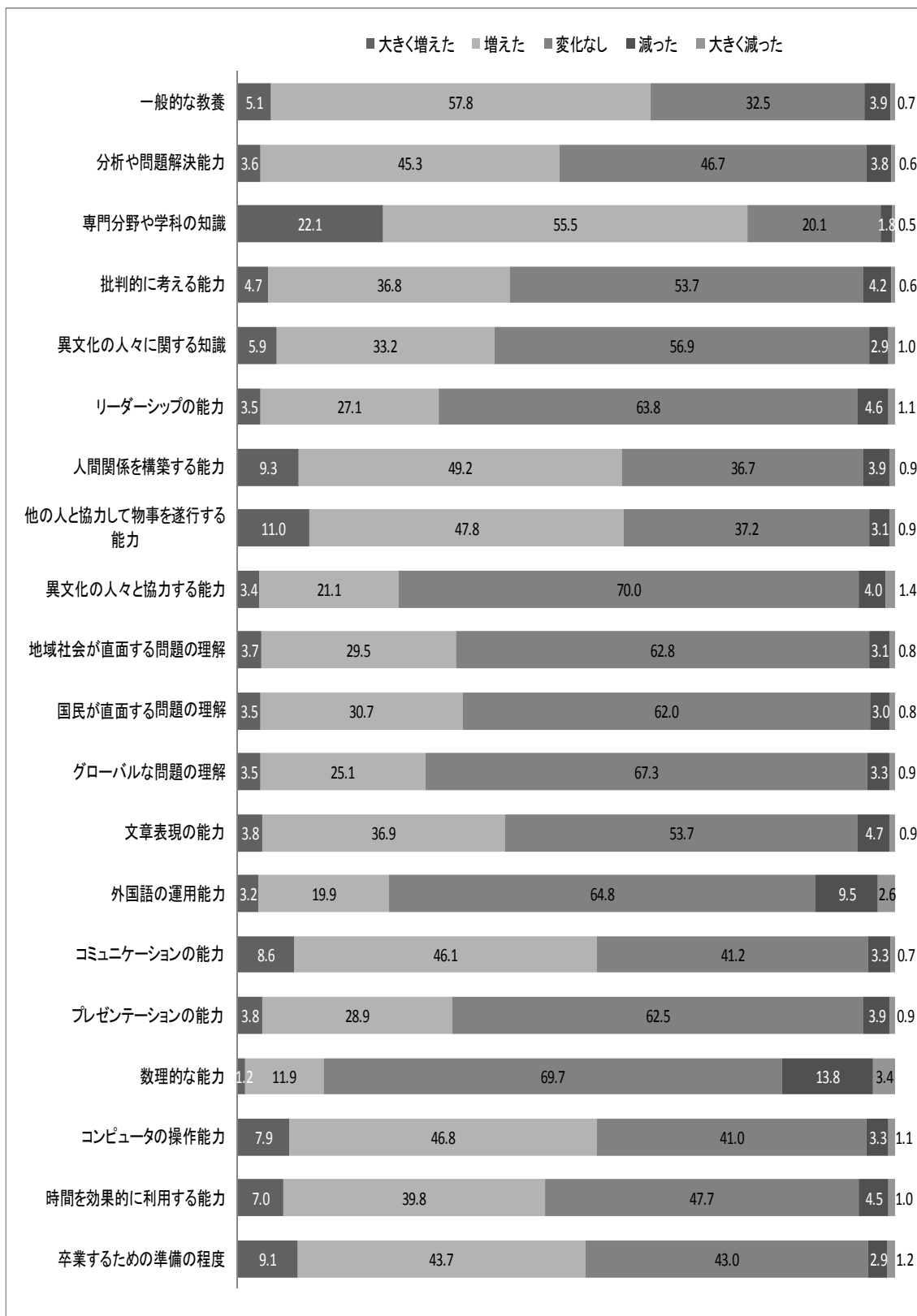
上の図は、短大教員が学生に対して以下の活動をどれくらい提供しているかについて示したものである。なお、以下の項目内容の隣の数値は「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の合計割合である。

これを見ると、約6割の学生が「教育課程や授業に対する助言や指導」(60.7%)や「就職や編入学など進路選択の励まし」(60.5%)といった活動について、教員から提供されたと答えている。この他に「学習能力を向上するための手助け」(51.1%)や「心の支えや励まし」(49.6%)、「専門的な目標を達成する手助け」(47.6%)、「成績評価以外の学習アドバイス」(47.4%)についても、約半数の学生がこの種の活動が「あった」と回答している。これらの項目の多くは学習活動を支援するものであるが、この回答分布を見る

限り、短大教員は学生に対して積極的な関与を行っていることがうかがえる。

反対に学生への提供が少ない活動は、「研究プロジェクトに関わる機会」(24.5%)と「推薦状の執筆」(19.7%)であり、そもそもこれらに関しては短大において行う機会そのものが少ないことが考えられる。

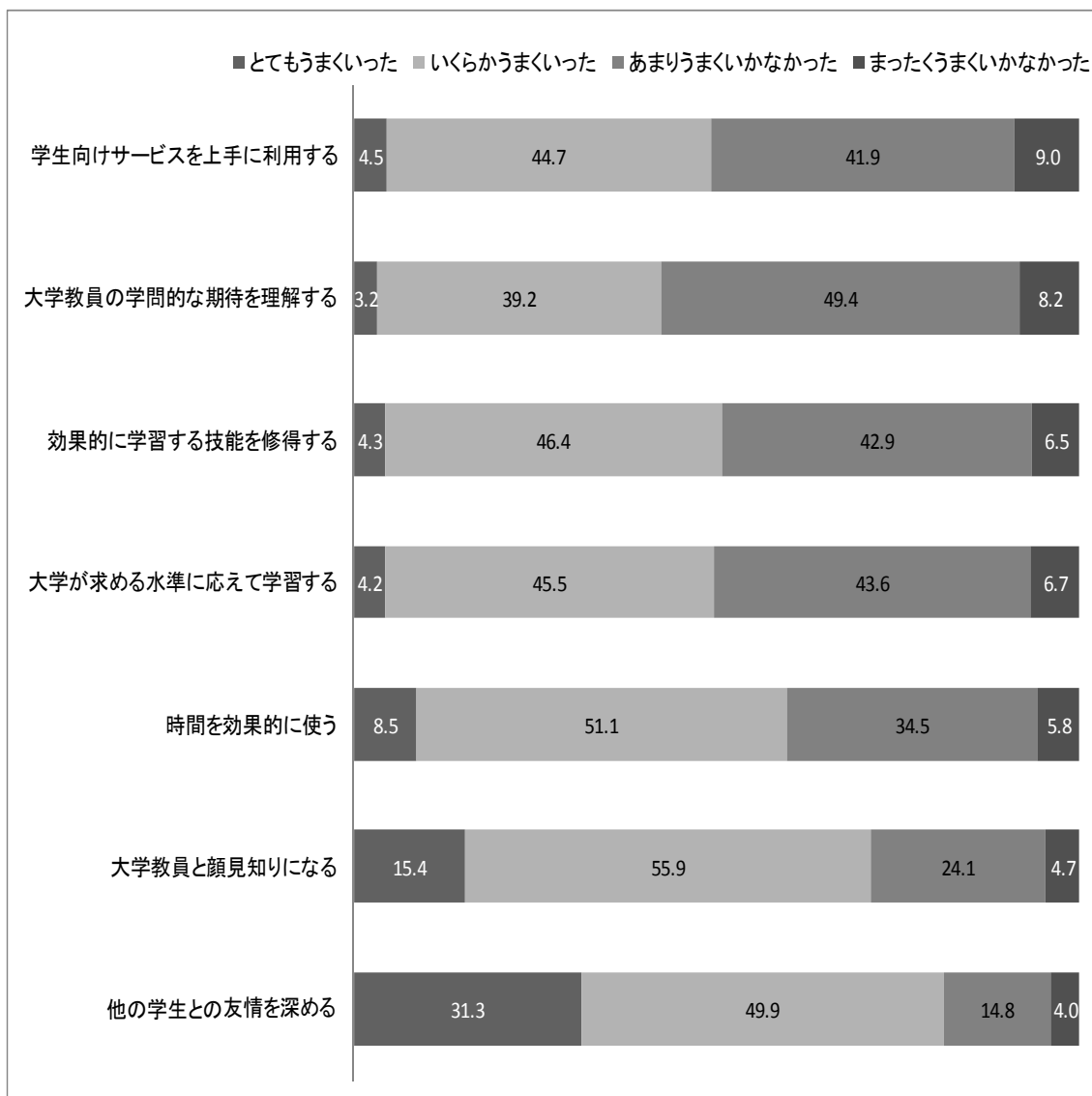
〔22〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。(%)



上の図は、短大入学後の学生の知識・技能の獲得についてその変化状況を尋ねたものである。以下提示する項目内容の横の数値は「大きく増えた」と「増えた」の合計割合である。

上の図より増加割合が最も高いのは「専門分野や学科の知識」(77.6%)であることから、専門教育が十分に実施されていることがわかる。ただ、専門教育だけかと言えばそうではなく「一般的な教養」も 62.9%となっているので、教養教育についても短大が力を注いでいると推測できる。また半数以上の学生が増えたと実感している能力は「他の人と協力して物事を遂行する能力」(58.8%)、「人間関係を構築する能力」(58.5%)、「コミュニケーションの能力」(54.7%)、「コンピュータの操作能力」(54.7%)、「卒業するための準備の程度」(52.8%)となっている。注目すべきは、対人関係を構築する際に必要となる能力が高い割合で獲得されていることである。4割以上の学生が増加したとしている能力は降順に「分析や問題解決能力」(48.9%)、「時間を効果的に利用する能力」(46.8%)、「批判的に考える能力」(41.5%)、「文章表現の能力」(40.7%)となっている。これらの技能は汎用的な技能(ジェネリックスキル)に関係しており、半数近くの学生が短大教育の中で能力を伸ばしている。しかし、その一方で批判的思考能力より下の項目は「変化なし」と回答した学生が50%以上いることから、この種の知識・技能を伸ばす取り組みを行う余地が残っている。また増加割合が低い「外国語の運用能力」(23.1%)や「数理的な能力」(13.1%)の2項目については、減少したと回答した学生も10%以上存在している。

〔23〕 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。(%)

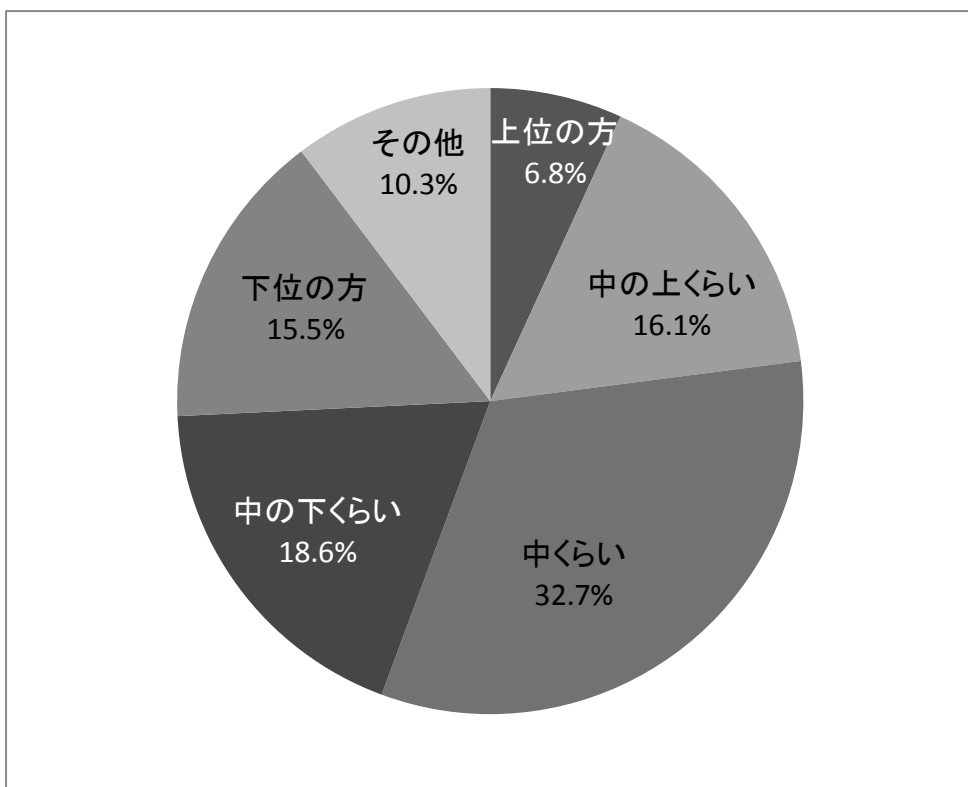


短大生は入学してからどのくらい短大に適応しているのだろうか。それについて尋ねた7つの項目の回答分布が上の図である。項目内容の横の数値は「とてもうまくいった」と「いづらかうまくいった」の割合を足したものである。

この図を見ると、全ての項目で「うまくいった」と回答した学生が多くなっている。このうち「他の学生との友情を深める」(81.2%)と「大学教員と顔見知りになる」(71.3%)の2項目が特に高い回答を示しており、学生生活において多くの学生が良好な人間関係を築いていることがうかがえる。これらに続き「時間を効果的に使う」(59.6%)や「効果的に学習する技能を修得する」(50.7%)、「大学が求める水準に応じて学習する」(49.7%)、「学生向けサービスを上手に利用する」(49.2%)といった項目においても、約半数の学生が学生生活にうまく適応できていると回答している。ただその反面、これらの項目においては

半数の学生が「うまくいっていない」と回答しており、何らかの原因で適応できていない状況にある。

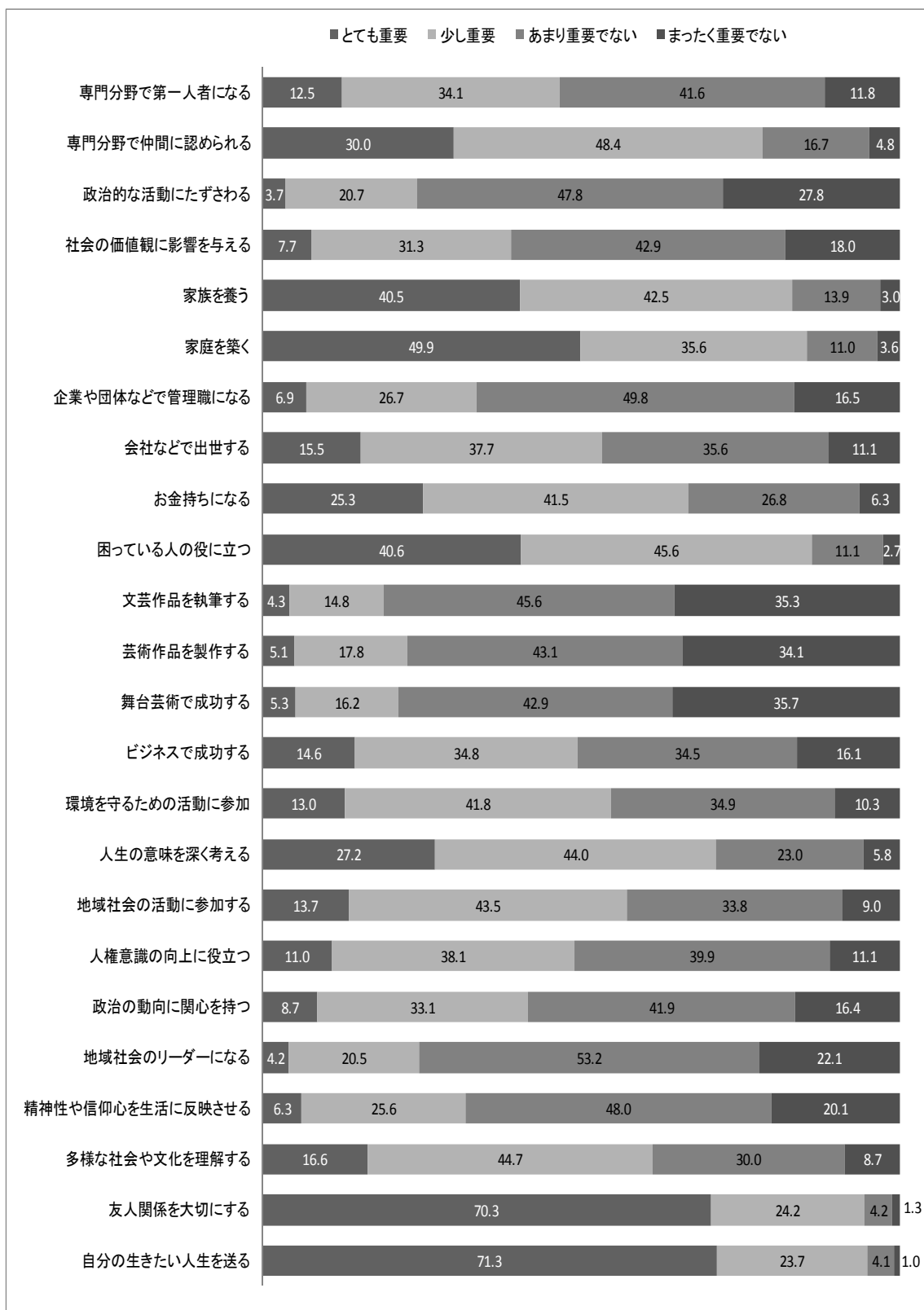
〔24〕 あなたの本学での成績はどれくらいですか。



短大における学生の成績分布はどのようになっているだろうか。その分布は上の図のようになっている。ただし、ここでの成績はあくまで回答者の自己申告によるものである。

これを見ると、最も回答が多いのは「中くらい」の 32.7%で、全体の 3 分の 1 を占めている。また「上位の方 (6.8%)」や「中の上くらい (16.1%)」といった成績上位層は 4 人に 1 人程度いることがわかる。「中の下くらい (18.6%)」と「下位の方 (15.5%)」の合計は全体の約 3 割である。

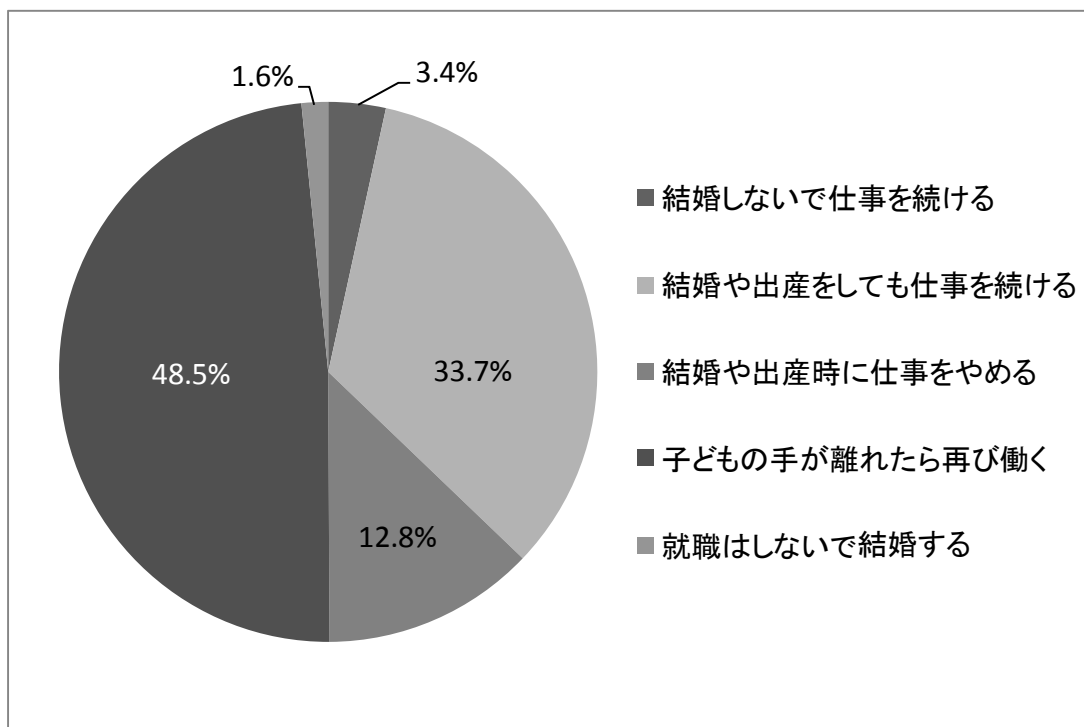
[25] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。(%)



人生の重要度といった学生の価値観に関することを尋ねた項目の回答分布を示したのが上の図である。なお、項目の隣の数値は「とても重要」と「少し重要」の合計割合である。

重要だと回答した割合が特に高い項目は「自分の生きたい人生を送る」(95%)、「友人関係を大切にする」(81.2%)であり、ほぼ全ての学生がこの2つの項目に関して重要だと考えている。この他に「困っている人の役に立つ」(86.2%)、「家族を築く」(85.5%)、「家族を養う」(83%)、「専門分野で仲間に認められる」(78.4%)についても約8割の学生が重要だとみなしている。上記以外に半数以上の学生が重要だと思っている項目は降順に、「人生の意味を深く考える」(71.2%)、「お金持ちになる」(66.8%)、「多様な社会や文化を理解する」(61.3%)、「地域社会の活動に参加する」(57.2%)、「環境を守るための活動に参加」(54.8%)、「会社などで出世する」(53.2%)となっている。これら重要度が高い項目の特徴としては、自分の人生の意義を考え、自己決定を下すことを重視し、また家族や友人、仲間を中心に良好な関係を築きたいと考え、地域社会や環境に対して貢献したいという意識を持っているのではないかと思われる。反対に4人に1人しか重要と思われていない項目は降順に「地域社会のリーダーになる」(24.7%)、「政治的な活動にたずさわる」(24.4%)、「芸術作品を製作する」(22.9%)、「舞台芸術で成功する」(21.5%)、「文芸作品を執筆する」(19.1%)である。これら重要度が低いとみなされている項目の特徴としては、文化・芸術に関するものや政治活動に関するもの、また地域のリーダーになるといったリーダーシップが必要となる項目についてはそれほど重視されない傾向にある。

〔26〕 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。



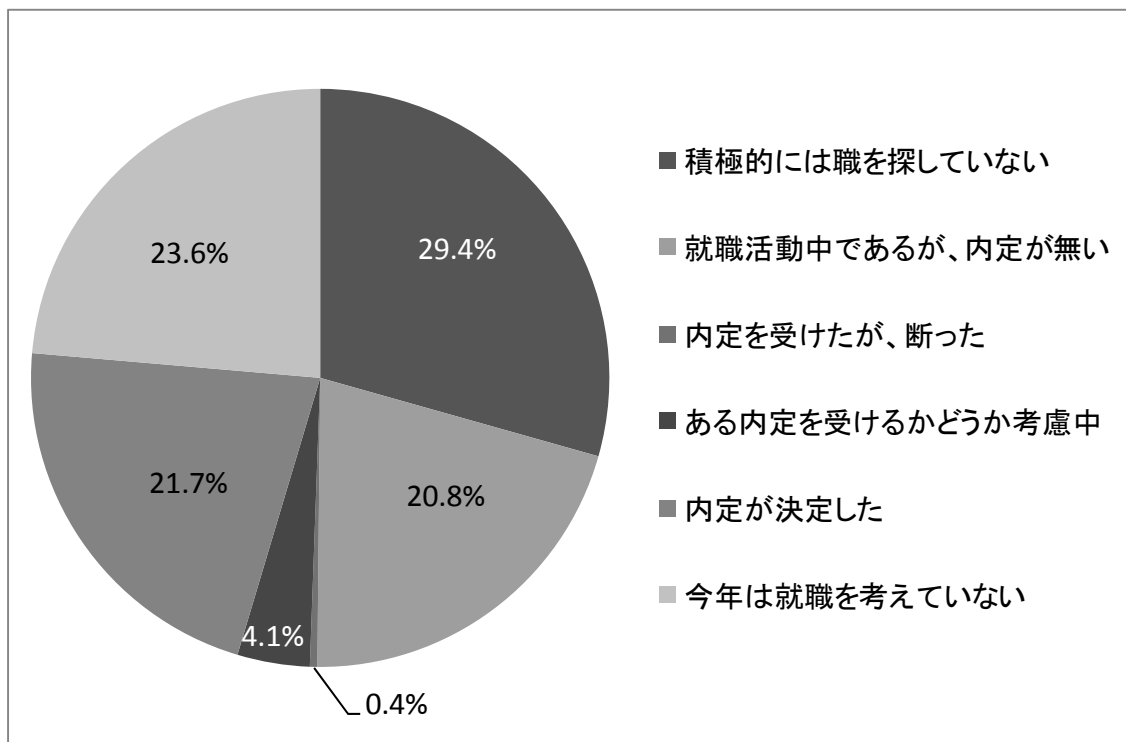
現代女性のキャリア・イメージは一体どのようなものなのか。それに関することを尋ねた項目の回答分布は上の図のようになっている。このうち、女子学生（5988名）のみの結果は以下の表のとおりである。

「結婚しないで仕事を続ける」（3.6%）、「結婚や出産をしても仕事を続ける」（33.3%）、「結婚や出産時に仕事をやめる」（11.4%）、「子どもの手が離れたら再び働く」（50.5%）、「就職はしないで結婚する」（1.2%）となっている。これらから察するに、結婚や出産の有無、一時離職したとしても何らかの形で働き続けたいと思っている女子学生が大多数であることがわかる。

女性の生き方の回答割合（女子学生のみ）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	217	3.6%
結婚や出産をしても仕事を続ける	1996	33.3%
結婚や出産時に仕事をやめる	680	11.4%
子どもの手が離れたら再び働く	3024	50.5%
就職はしないで結婚する	71	1.2%
合計	5988	100.0%
無回答	73	

〔27〕卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。



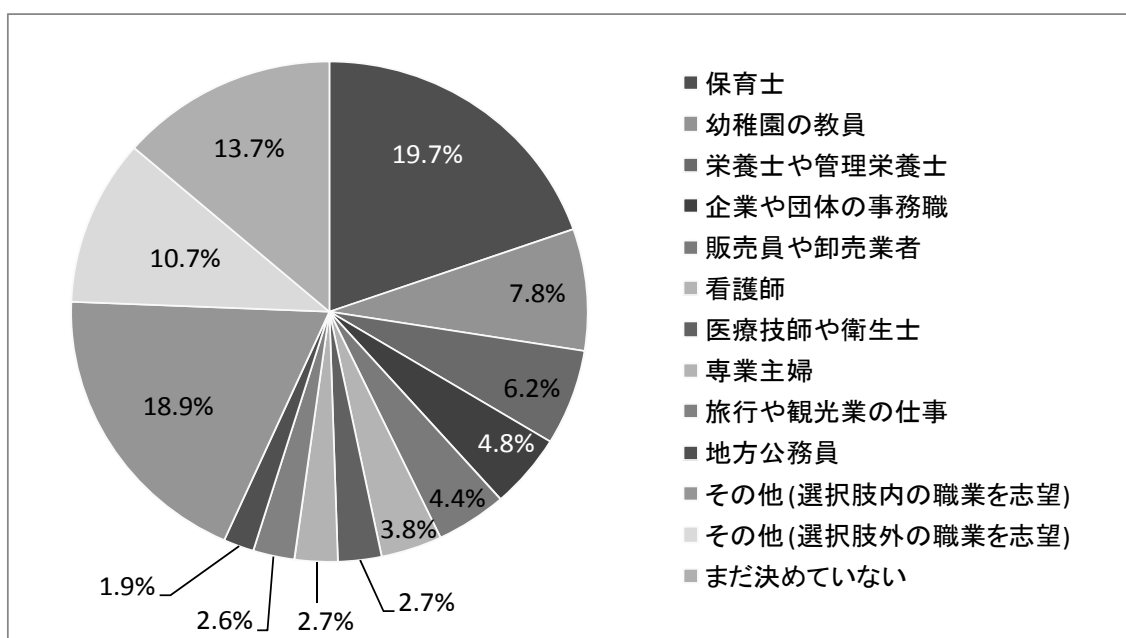
現在就職活動をしている（した）学生を対象に、現在の活動状況を尋ねたものが上の図である。

上の表をみると、回答割合が高い順では「内定が決定した」（21.7%）、「就職活動中であるが、内定が無い」（20.8%）、「ある内定を受けるかどうか考慮中」（4.1%）、「内定を受けたが、断った」（0.4%）となっており、何らかの内定を受けた経験がある学生は回答者全体の約 25%いることがうかがえる。その一方で「積極的に職を探していない」（29.4%）と「今年は就職を考えていない」（23.6%）より、回答時点で就職活動を行っていない、一切行っていない学生が約 5 割いることが読み取れる。

ただし、主に就職活動をしているのは「2年生以上」であることが考えられるので、学年別の下表よりその傾向を見てみると、「積極的に職を探していない」（1年生 45.5%、2年生以上 11.8%）や「今年は就職を考えていない」（1年生 33.4%、2年生以上 12.9%）より、現在就職活動をしていない学生の多くが 1 年生であることがわかる。学年別の内定を受けた学生の回答傾向は、1年生では 2.4%であるのに対して2年生以上は 43.0%となっている。

	1年生		2年生以上	
	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1614	45.5%	380	11.8%
就職活動中であるが、内定が無い	479	13.5%	929	28.8%
内定を受けたが、断った	5	0.1%	23	0.7%
ある内定を受けるかどうか考慮中	181	5.1%	93	2.9%
内定が決定した	85	2.4%	1389	43.0%
今年は就職を考えていない	1185	33.4%	417	12.9%
合計	3549	100.0%	3231	100.0%

[28] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

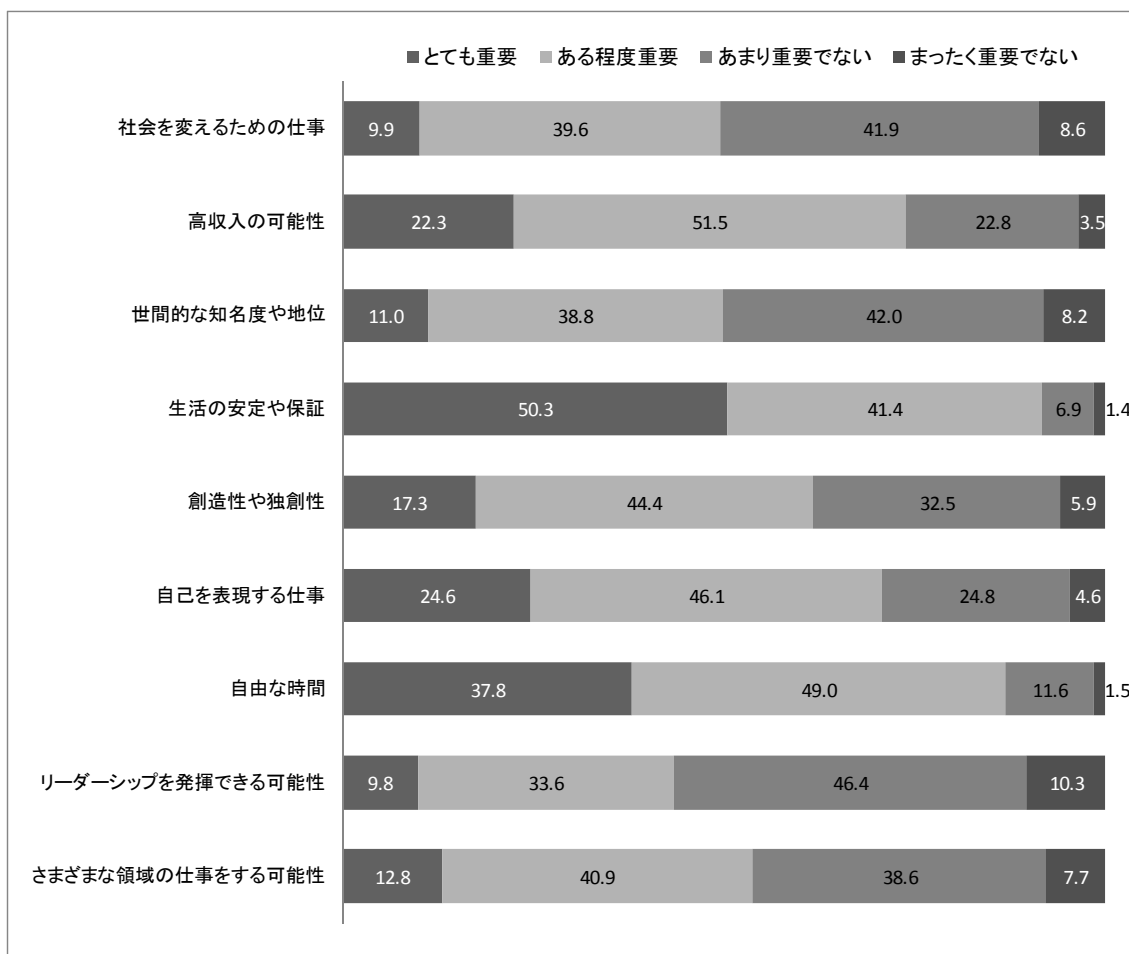


上の図は将来どのような職業やキャリアに就きたいかを尋ねた設問の回答分布である。ただ、上の図では全体の回答傾向が把握しにくいので、次の表のように職業・キャリアに対する志望別の回答割合が高い順に（上位10位まで）整理した。なお、この表は無回答者452人を除いている。

	度数	パーセント
保育士	1331	19.7%
幼稚園の教員	530	7.8%
栄養士や管理栄養士	417	6.2%
企業や団体の事務職	324	4.8%
販売員や卸売業者	301	4.4%
看護師	260	3.8%
医療技師や衛生士	185	2.7%
専業主婦	183	2.7%
旅行や観光業の仕事	176	2.6%
地方公務員	130	1.9%
その他（選択肢内の職業を志望）	1281	18.9%
その他（選択肢外の職業を志望）	724	10.7%
まだ決めていない	925	13.7%
合計	6767	100.0%

この表を見ると、何らかの職業・キャリアを志望している学生は全体の 86.3%もいて、キャリア未決定の学生は 13.7%のみである。志望度が高い上位 10 の職業は、順に「保育士」（19.7%）、「幼稚園の教員」（7.8%）、「栄養士や管理栄養士」（6.2%）、「企業や団体の事務職」（4.8%）、「販売員や卸売業者」（4.4%）、「看護師」（3.8%）、「医療技師や衛生士」（2.7%）、「専業主婦」（2.7%）、「旅行や観光業の仕事」（2.6%）、「地方公務員」（1.9%）となっている。学生の職業志望は、現在所属している学科や専攻と高い相関があると考えられる。例えば、「看護師」を選んだ 258 人の学生のうち、専門分野が「看護」である学生は 242 人（91.2%）である。同様に「保育士」1311 人中、専門分野が「教育」である学生は 1279 人（97.6%）となっている。

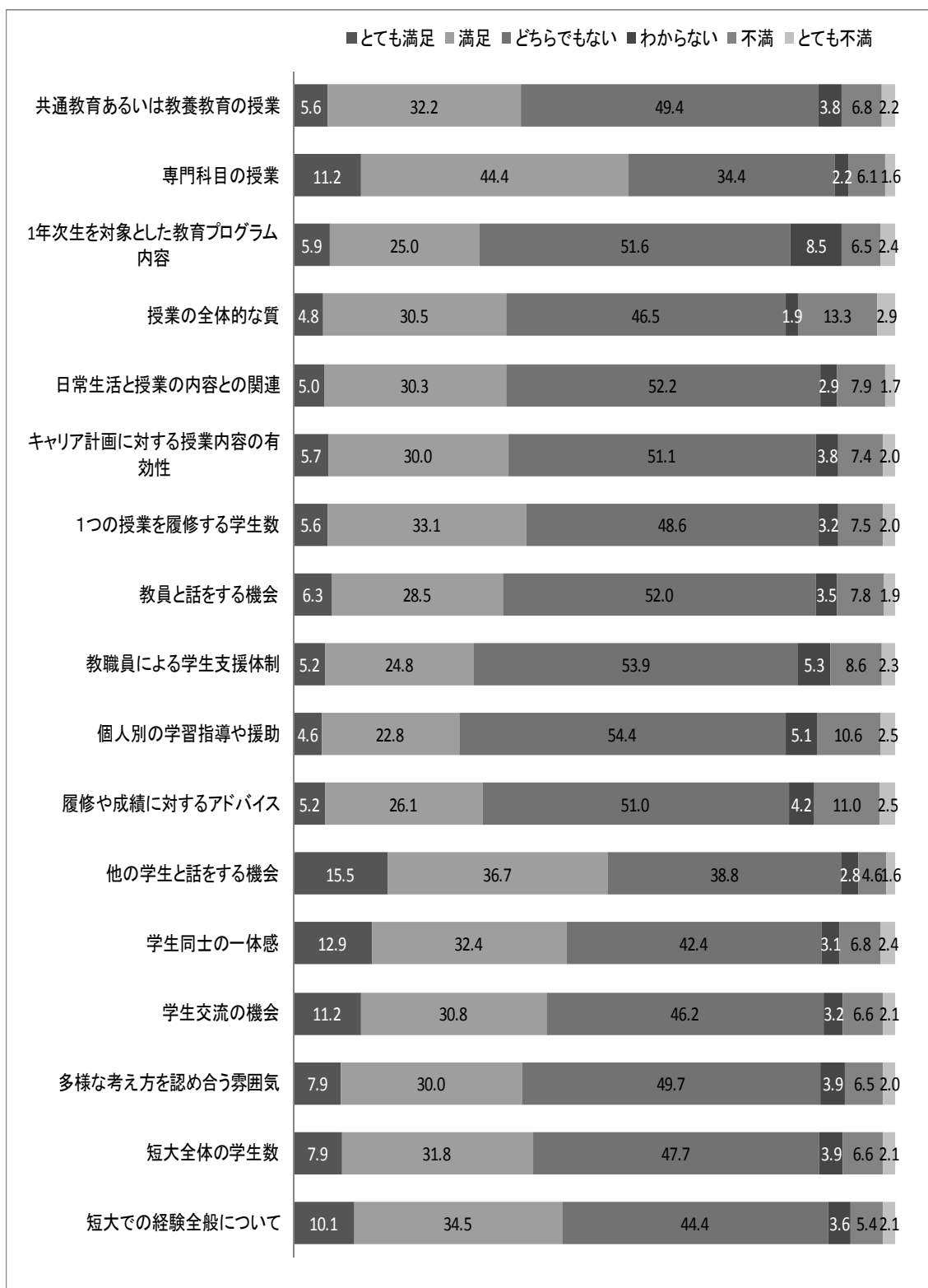
[29] 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらほどの程度重要ですか。(%)



キャリアを選択する際に、どのようなことを重視するのかを尋ねた 9 つの項目に関する回答分布は上の図の通りである。なお、項目内容の横の数値は「とても重要」と「少し重要」の合計割合である。

上の図より、キャリアを考えるにあたって 7 割以上の学生が重要だとみなしている項目は、「生活の安定や保証」(91.7%)、「自由な時間」(86.8%)、「高収入の可能性」(73.8%)、「自己を表現する仕事」(70.7%)である。これより、生活の基盤となる収入が十分に確保され、自己実現するのが可能な仕事を重視する傾向にあると考えられる。この他に半数以上の学生が重要だと思っている項目は、「創造性や独創性」(61.7%)と「さまざまな領域の仕事をする可能性」(53.7%)である。「世間的な知名度や地位」(49.8%)と「社会を変えるための仕事」(49.5%)は「重要—非重要」の回答割合が拮抗しているが、「リーダーシップを発揮できる可能性」(43.4%)はやや重要でないと考える学生が多いようである。

[30] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(%)

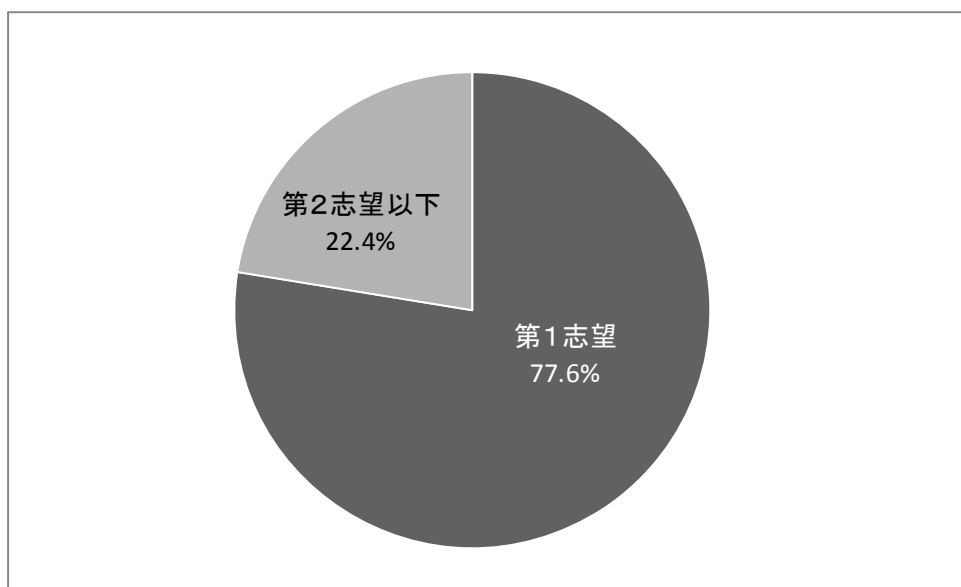


短大の教育全般に対して学生はどの程度満足を得ているのか。これら 17 項目について尋

ねた結果が上の図である。なお、項目内容横の数値は「とても満足」と「満足」の合計値である。

表を見ると、半数以上の学生が満足感を得ている項目は「専門科目の授業」(55.6%)と「他の学生と話しをする機会」(52.2%)の2項目のみである。また「学生同士の一体感」(45.3%)、「短大での経験全般について」(44.6%)、「学生交流の機会」(42.0%)といったこれら3つの項目が40%以上の学生が満足だと回答している。これに続いて「1つの授業を履修する学生数」(38.7%)から「教職員による学生支援体制」(30.0%)までの10項目について3割以上の学生が満足を示している。これとは逆に「とても不満」と「不満」の回答割合が高い項目に関して見てみると、「授業の全体的な質」や「履修や成績に対するアドバイス」、「個人別の学習指導や援助」の3項目について、15%前後の学生が不満だと回答している。ただし、これら満足度に関する項目においては中間回答の「どちらでもない」を選ぶ学生も多く、中間回答が5割前後ある項目は17項目中13項目に及んでいる。

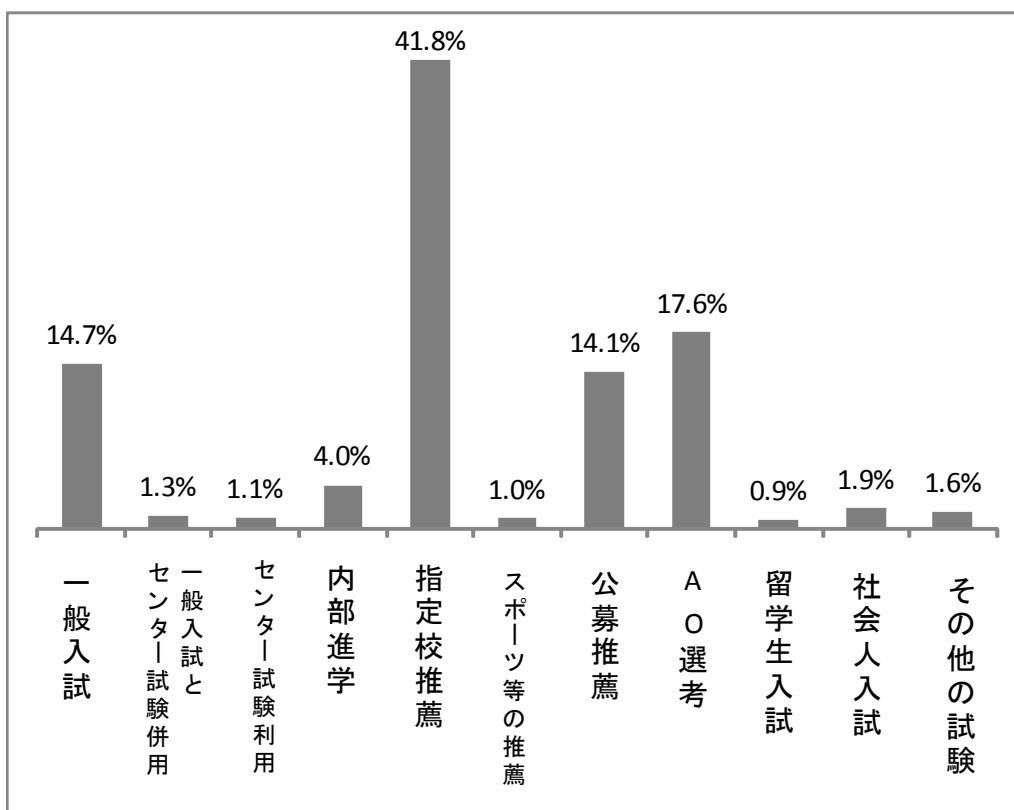
[31] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。



学生が現在進学している短大はどのくらい志望していたのか。それに関する回答分布は上の図である。

「第1志望」と答えた学生は全体の77.6%、「第2志望以下」である学生は22.4%となっている。このことから、多くの学生が現在所属している短大を志望して進学してきたことがわかる。

〔32〕 あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。



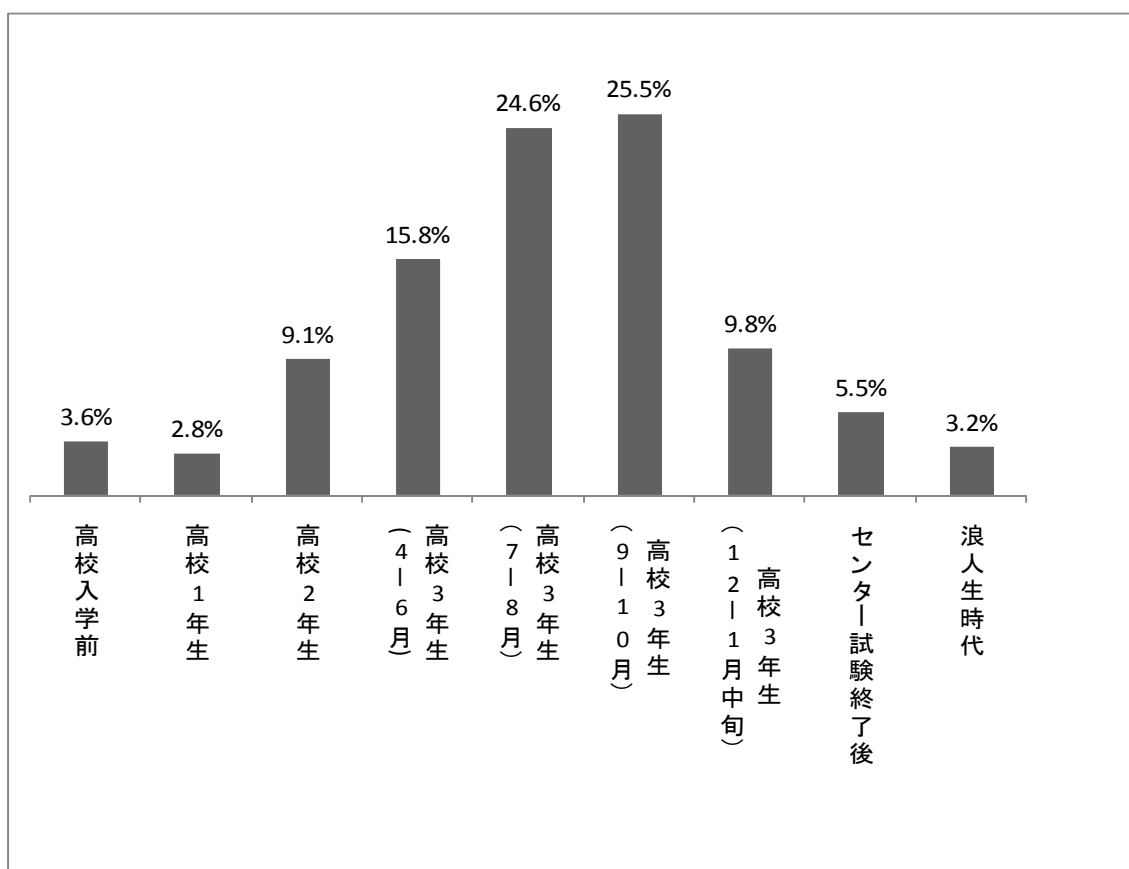
多くの学生が第1志望として進学しているが、それではどのような入試方式を通して進学してきたのだろうか。その回答分布は上の図である。

この図より、最も多いのは「指定校推薦」(41.8%)で、4割以上の学生がこの方式を経て進学していることがわかる。これに「AO選考」(17.6%)、「一般入試」(14.7%)、「公募推薦」(14.1%)と続いている。

ここで、入試方式を3つに分類したのが次の表である。この分類は、1つ目は「一般入試」であり、一般入試、一般入試とセンター試験の併用型、センター試験利用型をひとまとまりとする。2つ目は「各種推薦入試」であり、これは内部進学、指定校推薦、スポーツや課外活動の推薦、公募推薦の4つをまとめている。そして3つ目は「その他」の入試であり、留学生入試と社会人入試、その他の入試を合わせている。これを見ると「一般入試」による入学者は17.1%にすぎない一方で、「各種推薦入試」の入学者は78.4%を占めている。このことより、約5人中4人が学力選抜によらない入試方式で短大に進学していることがうかがえる。

	度数	パーセント
一般入試	1215	17.1%
各種推薦入試	5564	78.4%
その他	314	4.4%
合計	7093	100.0%
無回答	126	

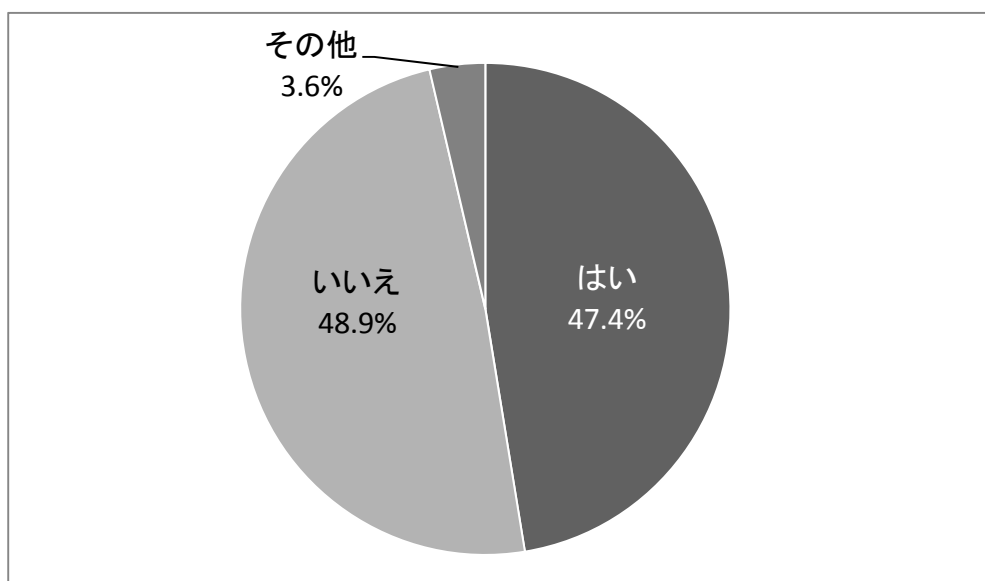
[33] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。



学生たちがいつ現在の短大に進学を決めたのかについて尋ねたところ、上の図のような回答分布になっている。

この図より、学生の回答割合が高いのは高校3年の9～10月の25.5%であり、次いで高校3年の7～8月が24.6%、高校3年の4～6月が15.8%となっている。高校3年の始業から夏休みまでに受験を決定した学生は40.4%であることから、各種推薦入試が実施されるのが9月以降と考えると、試験対策等の準備をするために、この時期に受験を決定するケースが多くなると推測できる。

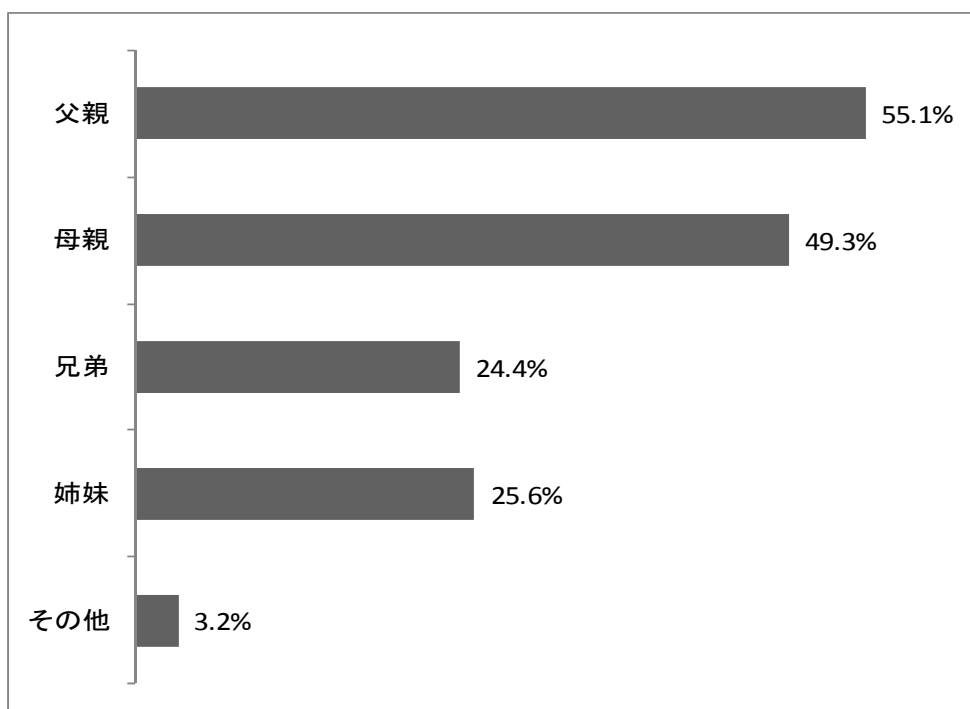
〔34-1〕 あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。



学生の家族内に高等教育機関卒業者がいるかどうか尋ねた結果が上の図である。

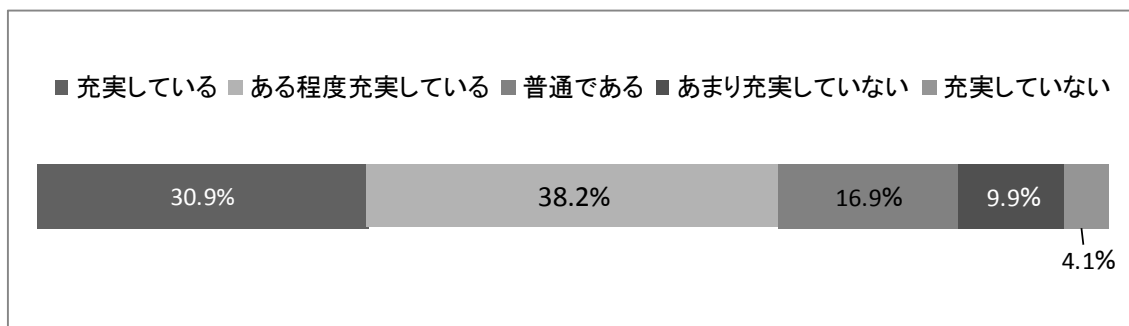
これを見ると、家族内に高等教育卒業者がいるのは 47.4%で、誰もいないのが 48.9%となっている。

〔34-2〕 ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。



次に〔34-1〕で家族内卒業者がいる学生（該当者 3354 人）に対して、家族のうち誰が卒業しているのか聞いたところ、上の図のような回答分布になった。なお、この設問は複数回答可としている。上の図を見ると、「父親」が 55.1%、「母親」が 49.3%となっている。「兄弟」は 24.4%、「姉妹」は 25.6%である。父母の半数程度が大学及び短大を卒業しており、子どもに対しても自分たちと同じように高等教育機関に進学させていると考えられる。

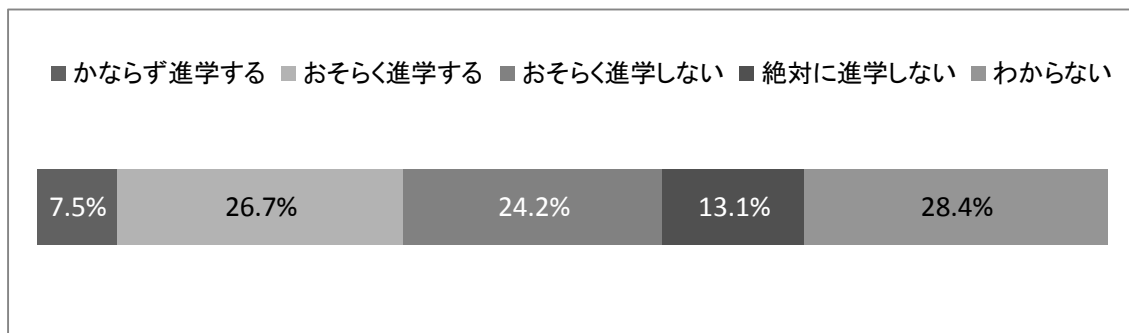
〔35〕 あなたの学生生活は充実していますか。



短大生の学生生活全般に対する充実感について尋ねた結果、上の図のような回答分布であった。

「充実している」と回答した学生は 30.9%、「ある程度充実している」と回答した学生が 38.2%であることから、7 割近くの学生は、現在の学生生活が充実しているということがわかる。また「充実していない」と答えた学生が 4.1%、「あまり充実していない」学生は 9.9%いる。多くの学生が短大での生活に充実感を感じている一方で、約 6 人に 1 人は充実した生活を送れていないと示している。

〔36〕 もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度本学に進学しますか。



本学に再度入学する可能性があるかどうかを学生に尋ねたところ、上の図に示した結果

が得られた。

「かならず進学する」と回答した学生は 7.5%、「おそらく進学する」は 26.7%である。このことから 3 人に 1 人の割合で、現在所属している短大に再度進学したいと思っていることがわかる。その一方で、「絶対に進学しない」と答えた学生が 13.1%、「おそらく進学しない」は 24.2%となっており、約 4 割の学生は今の短大に進学するとは限らないと考えている。また「わからない」と答えた学生が 28.4%もいて、回答時点で再度入学するにふさわしい短大かどうか、判断できない学生が 4 人に 1 人はいる。

参加校の意見

本調査では、調査参加校に対して、データ入力作業等の整理が終了した平成 22 年 3 月に短期大学ごとの集計結果を提供したが、同年 9 月に全体集計結果を中間報告としてまとめ、9 月 7 日付で、それを参加校に送付したのにあわせ、以下のアンケートにより、意見の提出を依頼した。

「短大生調査 2009 年 (JJCSS2009)」についてのアンケート

1. 調査項目について

調査項目が貴学の学生への質問として、

- 適切であった
- 大旨適切であった
- あまり適切でなかった
- 不適切であった

適切でなかった、あるいは改善を要すると感じられた項目について、具体的にご指摘ください。

2. 実施時期について

実施時期について、ご意見等をお書き下さい。

3. 実施方法について

実施方法について、ご意見等をお書き下さい。

4. その他

その他、何でもご意見、ご感想等をお願いいたします。

その結果、締め切りとした 9 月 22 日までに 22 校、その後の再度の依頼に対して 4 校、合計 26 校からの回答を得た。下記は、そのアンケートの集計結果である。

[アンケート集計結果]

1. 調査項目について

調査項目が貴学の学生への質問として、

- ① 適切であった・・・・・・・・・・11校
- ② 大旨適切であった・・・・・・・・14校
- ③ あまり適切でなかった・・・・・・・・1校
- ④ 不適切であった・・・・・・・・なし

適切でなかった、あるいは改善を要すると感じられた項目について、具体的にご指摘ください。

- 「宗教」、「楽器の演奏」は、短期大学・学科によっては必修科目ではあろうが、あまり一般的と思われない。個人ごとの傾向をみるのに向いていないのではないか。
- 本学は単科大学のため、いくつかの設問において、全国の比較が困難なものがあった。
- 調査項目 18 の選択肢 5（「やるべきことの多さに圧倒された」）は経験よりも感情による項目と受けとれ、違和感を覚える。
- 調査項目 27（「卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください」）は、調査時期（12月）では有意義な回答が得られないと感じる。
- 調査項目 28（「あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか」）では、職業の選択肢に福祉職（例えば、介護福祉士）が少ないので偏りを感じる。
- 教育方法の設問について、補習授業や海外研修の項目はありましたが、アクティブラーニングや参加的授業の履修など、教育方法の設問があってもよいと思いました。
- 進路や就職について、就職の内定を聞く調査項目 27 は 1 年次生については適切でないかもしれないと思いました。調査票を 1 年次生用と 2 年次生用に分けた方がいいかもしれないでしょう。さらに、できれば新入生用や卒業生用の調査票を用意していただきたいです。
- アンケートでは無理かもしれませんが、学生たちの「心の闇（精神的病理）」の部分も分かると更に良いでしょう。
- 調査項目 14 の選択肢 6（「提出期限までに宿題を完成できなかった」）、23（「取りたい授業を履修登録できなかった」）は否定表現で答えを求めており、混乱を生じる可能性があり、それぞれ「できた」と肯定形に改めることが望ましく思う。
- 調査項目 17（「あなたは今年度、次の活動に 1 週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか」）の選択肢 1 は、『授業以外での』勉強や宿題」として授業時間を含まないことを明示する方が望ましいと思う。
- 女子学生のみを回答を求められる設問がある（調査項目 26「次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか」）が、男子学生が回答する場合の指示が不明である。
- 留学生に関するもの、入試方法に関するもの（大学内で選択できる）、通学時間に関するものに、改善が必要と思われる。全体として質問数が多く、学生が集中しにくかった。

2. 実施時期について

- 適切な時期であった（他、8校）。
- 8月半ばまで、授業や補講があったので、9月中旬の締切りくらいだと回答しやすい。
- 短期大学の1・2年生の全体をカバーする上で良い時期だったと考えます。
- 配布・回収のための時間確保が、12月中旬では難しい。半月から1ヵ月前倒しでの実施が本学では適切（特に2年生のデータ回収のため）。
- 1回の実施時期としては現状が最善であると思います。しかし、対象別に調査できるなら、入学間もなくの時期に新生調査、1年次終了近くに1年次生調査、卒業間近に2年次生調査、そして卒業後に卒業生調査を実施するのが最善と思います。
- 実施・集約期間として最低2週間とれるよう配慮をお願いしたい。（協会からのアンケート送付を早めるか、回収期限を遅くするかの措置をお願いいたします。）
- 調査項目21（「本学の短大教員は、あなたに次の活動をどのくらい提供しましたか」）については遅い時期が良いかと思いますが、11月末から12月1週目までに調査を終了したい。
- 時期は適切でした。理由は、本学は3学年が病院など臨床現場での実習が12月初旬まで続くため、全学生が学内にそろえるのは12月中旬から1月に限られるため。
- 1回生に限って言うと、もう少し年度末に近い方が学習に関する回答がより正確になると考えます。
- 12月は極めて繁忙な時期であり、実施時期を少し繰り上げて10～11月が良いのではないかと。
- 遅くても9月末までに行いたい。

3. 実施方法について

- 申込から決定までの時間がかかり過ぎのようでした。学生に大学で一斉に回答させました。その時間帯を決めるのに、いろいろとやりくりが必要なため、早めに実施できるかどうかをお知らせいただきたい。また、全学一斉に行う時間帯が確保できないので、学科ごとに実施しましたが、回収、送付までの時間をもう少し長くとっていただけると、助かります。
- 適切であった。
- 学生を一堂に集めて調査しました。特に不都合はありませんでした。
- 特に問題なく実施できた。
- 現在の実施方法でも問題はありませぬ。しかし、マークシートやウェブによる回答も可能だと思います。

- 前は授業時間を利用したので、放課後を利用するなど検討（学内での検討）。
- 現在の方法で書きやすいと存じます。
- 年度により大きく変動がないと判断できる項目については、回答時間の短縮のために3～5年おきとしても良いかと思う。
- 初めて担当しましたが、問題・改善点は思い当たりません。
- 問題なくスムーズにできた。学生も協力してくれたのでよかったですと思います。
- 全員が集まる必修科目の担当教員の協力が必要である。
- 学年ごとに一括で行いたい。

4. その他

- 今後、このアンケートは毎年継続して行われるのかが分かれば、有り難いと思います。本学としては、毎年負担かもしれませんので、数年ごとに実施し、傾向を見たいと思っております。
- 各項目への全国の短期大学生の回答は大変参考になりました。ひとつ要望させていただきます。私どもの短期大学は2学科制でキャンパスも違います。それで、可能なら学科単位のデータをいただければ幸いです。
- 本学単独で実施する場合には、設定できない（多分しない）項目が多くあり、学生の実態を把握するのに大変参考になった。継続して調査を続けていきたいと思う。
- 設問意図・内容を十分に理解せず回答しているものがしばしばみられた。本学内での実施方法への工夫の必要性を感じている。
- 参加できて大変良かったと思っています。ありがとうございました。
- 今後も継続して実施できればと考える。
- 参加短期大学には各短期大学のシステムデータが送られてくるとは思いますが、他大学と比較するには全体のシステムデータも必要です。個別大学が特定されない全体のシステムデータの配付を希望します。
- 日本人の学生には回答が難しい用語があった。例えば、調査項目19「スピリチュアリティ」など。
- 問いの意図が不明瞭に感じられる設問がいくつかあった。例えば、調査項目34（「あなたのご家族についておたずねします」）、調査項目36（「もし大学や短大を選び直したら、あなたはもう一度、本学に進学しますか」）など。
- 貴重な調査を学内活用したい。
- 現在、短期大学改革に取り組んでおり、短期大学への社会的な要求が変化していること、また、短期大学生の社会人基礎力やリメディアル教育の必要性などを、痛感いたしております。
- 自宅から通学する学生が多いこと、地元の学生が多いことが明確に示されました。ま

た、学力・思考力ともに中位（中の上・中・下）の自己認識が、短期大学生にあることが分かりました。

- この混迷する社会の不況の中で、経済的・精神的に自立する女性として育ててゆくことの難しさと、使命を実感いたしました。
- 集計結果をできるだけ早く、例えば 2 月中旬にいただければ自己点検にも使いやすくなると思う。
- 全国的な調査に参加させていただき、より客観的に本学について考えることができました。今後も参加させていただきたいと思います。
- 本学のような小規模大学には、あまり有効ではないように感じました。
- 本学では学内で学生に関する調査を一切実施していないため、学生の実態、全体像を知る機会に恵まれませんでした。このたび調査に参加させていただき有益なデータをいただいたことに感謝しております。データは自己点検・評価、特に教育の実施体制や学生支援の在り方を検討する際に活用させていただきます。また、クラス担任の学生指導にも活用させていただきます。ありがとうございました。
- 本学では現在ベンチマークを実施しており、大いに役立った。

この集計結果によれば、今回の調査は、内容、実施方法ともおおむね適切なものであった。しかし、参加校の個々の状況によっては一部に不整合がみられ、またその不整合も一律ではない、と結論付けることができる。

このことから、本調査の今後については、①内容と実施方法は今回実施のものを基本とすることが適切であり、それと継続性をもって実施することが必要である。②一方、より広範な要請に対して柔軟な対応ができる工夫が求められている、と仮設することができる。したがって、次回の 2010 年調査では、2009 年調査と若干の実施時期の工夫のもとに、同一内容で調査を実施し、上記の仮説を検証した上で、柔軟的な対応へ工夫の道を探ることとしたい。

<付>集計表一覧

[1] あなたの性別をお答えください。

	度数	パーセント
男性	1046	14.7
女性	6061	85.3
無回答	(112)	
合計	7107	100.0

[2] 今年度(2009年4月～2010年3月)、あなたは何歳になりますか。

	度数	パーセント
18歳以下	171	2.4
19歳	3421	47.5
20歳	2915	40.5
21-23歳	514	7.1
24-29歳	114	1.6
30-39歳	42	0.6
40-54歳	13	0.2
55歳以上	13	0.2
無回答	(16)	
合計	7203	100.0

[3] あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2009(平成21)年度	3771	52.4
2008(平成20)年度	3063	42.6
2007(平成19)年度か、それ以前	360	5.0
無回答	(25)	
合計	7194	100.0

[4] あなたの現在の在学状況を教えてください。

	度数	パーセント
1年生	3797	52.7
2年生	3209	44.5
3年生以上	200	2.8
その他(科目等履修生など)	4	0.1
無回答	(9)	
合計	7210	100.0

[5] あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。

	度数	パーセント
実家または親戚の家	5084	70.6
アパートやマンション	1533	21.3
大学の寮や下宿	551	7.7
その他	33	0.5
無回答	(18)	
合計	7201	100.0

[6] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	度数	パーセント
30分未満	2755	38.2
30分以上－1時間未満	2141	29.7
1時間以上－1時間30分未満	1420	19.7
1時間30分以上－2時間未満	753	10.4
2時間以上	138	1.9
無回答	(12)	
合計	7207	100.0

[7] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

	度数	パーセント
上位の方	823	11.4
中の上くらい	1636	22.7
中くらい	2244	31.2
中の下くらい	1294	18.0
下位の方	937	13.0
その他	267	3.7
無回答	(18)	
合計	7201	100.0

[8(1)] あなたの高校は公立(県立・市立など)、私立、国立のどれでしたか。

	度数	パーセント
公立	4830	67.0
私立	2224	30.9
国立	71	1.0
その他	80	1.1
無回答	(14)	
合計	7205	100.0

〔8(2)〕 あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。

	度数	パーセント
共学	6130	85.1
別学	1077	14.9
無回答	(12)	
合計	7207	100.0

〔9 - 1〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(日本学生支援機構の奨学金)。

	度数	パーセント
受けていない	4958	68.7
受けている	2261	31.3
合計	7219	100.0

〔9 - 2〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(地方自治体の奨学金)。

	度数	パーセント
受けていない	7067	97.9
受けている	152	2.1
合計	7219	100.0

〔9 - 3〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(民間団体の奨学金)。

	度数	パーセント
受けていない	7156	99.1
受けている	63	0.9
合計	7219	100.0

〔9 - 4〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(短大の奨学金や授業料免除)。

	度数	パーセント
受けていない	6588	91.3
受けている	631	8.7
合計	7219	100.0

〔9 - 5〕 あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(その他の経済的援助)。

	度数	パーセント
受けていない	6890	95.4
受けている	329	4.6
合計	7219	100.0

〔10 - 1〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(単位を取得できなかった授業があった)。

	度数	パーセント
あてはまらない	5846	81.0
あてはまる	1373	19.0
合計	7219	100.0

〔10 - 2〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(学力不足を補うため補習授業を履修した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	6508	90.2
あてはまる	711	9.8
合計	7219	100.0

〔10 - 3〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(人権や民族に関する授業を履修した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	5655	78.3
あてはまる	1564	21.7
合計	7219	100.0

〔10 - 4〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(女性学の授業を履修した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	6382	88.4
あてはまる	837	11.6
合計	7219	100.0

〔10 - 5〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	6807	94.3
あてはまる	412	5.7
合計	7219	100.0

〔10 - 6〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(海外研修プログラムに参加した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	6803	94.2
あてはまる	416	5.8
合計	7219	100.0

〔10 - 7〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	7098	98.3
あてはまる	121	1.7
合計	7219	100.0

〔10 - 8〕 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(他の大学や短大、高等専門学校などから転学した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	7193	99.6
あてはまる	26	0.4
合計	7219	100.0

〔11〕 あなたが本学に進学した理由として、次のことがらほどの程度重要でしたか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し重要	とても重要	無回答	合計
親の希望	2857 40.0	2274 31.8	1638 22.9	376 5.3	(74)	7145 100.0
親族・親せきから進学を勧められた	4676 65.7	1661 23.3	635 8.9	143 2.0	(104)	7115 100
高校の先生に勧められた	2621 36.9	1850 26.0	1922 27.0	714 10.0	(112)	7107 100.0
予備校や塾で勧められた	5622 79.7	1086 15.4	294 4.2	56 0.8	(161)	7058 100.0
学費が適当であった	2860 40.3	2072 29.2	1579 22.2	587 8.3	(121)	7098 100.0
奨学金が支給された	3833 54.5	1355 19.3	1038 14.8	805 11.4	(188)	7031 100.0
自宅から通学できる	1684 23.7	779 11.0	1834 25.8	2814 39.6	(108)	7111 100.0
就職に有利	1028 14.5	1342 18.9	2517 35.4	2220 31.2	(112)	7107 100.0
四年制大学より早く就職できる	1733 24.4	1931 27.2	2066 29.1	1368 19.3	(121)	7098 100.0
高校卒業後すぐに働きたくなかった	2225 31.4	1609 22.7	1933 27.3	1318 18.6	(134)	7085 100.0
本学で学ぶ内容に興味があった	553 7.8	1000 14.0	2655 37.2	2927 41.0	(84)	7135 100.0
専門学校より幅広い勉強ができる	946 13.3	1813 25.4	2521 35.4	1847 25.9	(92)	7127 100.0
学生生活を楽しんでみたかった	718 10.1	1226 17.2	2786 39.1	2395 33.6	(94)	7125 100.0
本学の校風に魅力があった	1309 18.4	2483 34.8	2262 31.7	1076 15.1	(89)	7130 100.0
本学のキャンパスがきれいだった	1653 23.3	2515 35.4	1929 27.1	1011 14.2	(111)	7108 100.0
資格をとるために必要だった	718 10.1	1052 14.8	1899 26.7	3439 48.4	(111)	7108 100.0
大学に編入することもできる	2596 36.6	2298 32.4	1168 16.5	1028 14.5	(129)	7090 100.0
推せん入試等で入学が早く内定した	1732 24.3	1114 15.6	1846 25.9	2437 34.2	(90)	7129 100.0

〔12〕 あなたは留学生ですか。

	度数	パーセント
はい	99	1.4
いいえ	7018	98.6
無回答	(102)	
合計	7117	100

[13] あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習を受けていますか。
また、そのような支援を受けたいと思いますか。

		特別な学習支援を		合計	特別な学習支援を		合計
		受けている	受けていない		受けたい	受けたくない	
1 文章表現	N	(512)	(5086)	(5598)	(1856)	(2117)	(3973)
	%	9.1	90.9	100.0	46.7	53.3	100.0
2 数学	N	(238)	(5310)	(5548)	(881)	(3126)	(4007)
	%	4.3	95.7	100.0	22.0	78.0	100.0
3 理科	N	(175)	(5383)	(5558)	(800)	(3188)	(3988)
	%	3.1	96.9	100.0	20.1	79.9	100.0
4 英語	N	(672)	(4897)	(5569)	(1627)	(2370)	(3997)
	%	12.1	87.9	100.0	40.7	59.3	100.0

[14] 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。

		ひんぱんに した	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった	合計
1 学際的な授業を履修した	N	(462)	(1658)	(2589)	(2280)	(6989)
	%	6.6	23.7	37	32.6	100.0
2 自主的な学習プロジェクトに参加した	N	(220)	(1134)	(2611)	(3147)	(7112)
	%	3.1	15.9	36.7	44.2	100.0
3 授業内容について他の学生と議論した	N	(504)	(2273)	(2204)	(2139)	(7120)
	%	7.1	31.9	31.0	30.0	100.0
4 教員と懇親会を持った	N	(132)	(803)	(1455)	(4701)	(7091)
	%	1.9	11.3	20.5	66.3	100.0
5 スポーツに参加した	N	(1062)	(1755)	(1593)	(2705)	(7115)
	%	14.9	24.7	22.4	38.0	100.0
6 提出期限までに宿題を完成できなかった	N	(402)	(2056)	(2101)	(2560)	(7119)
	%	5.6	28.9	29.5	36.0	100.0
7 授業をつまらなく感じた	N	(1497)	(3973)	(1356)	(319)	(7145)
	%	21.0	55.6	19.0	4.5	100.0
8 授業に遅刻した	N	(888)	(2745)	(1885)	(1634)	(7152)
	%	12.4	38.4	26.4	22.8	100.0
9 他の学生と一緒に勉強した	N	(1592)	(3066)	(1396)	(1076)	(7130)
	%	22.3	43.0	19.6	15.1	100.0
10 ボランティア活動をした	N	(622)	(1419)	(1578)	(3470)	(7089)
	%	8.8	20.0	22.3	48.9	100.0
11 インターネットを使って授業課題を受けた	N	(1263)	(2211)	(1278)	(2391)	(7143)
	%	17.7	31.0	17.9	33.5	100.0
12 インターネットを使って授業課題を提出した	N	(1485)	(2635)	(1131)	(1885)	(7136)
	%	20.8	36.9	15.8	26.4	100.0
13 研究や宿題のためにWeb上の情報を利用した	N	(2510)	(3046)	(825)	(758)	(7139)
	%	35.2	42.7	11.6	10.6	100.0
14 Web上でニュースを読んだ	N	(2129)	(2361)	(1438)	(1216)	(7144)
	%	29.8	33.0	20.1	17.0	100.0
15 Web上でブログを読んだ	N	(2353)	(2068)	(1213)	(1524)	(7158)
	%	32.9	28.9	16.9	21.3	100.0
16 Web上でブログを書いた	N	(1581)	(1447)	(1244)	(2847)	(7119)
	%	22.2	20.3	17.5	40.0	100.0
17 研究や宿題のために図書館を利用した	N	(1829)	(2826)	(1323)	(1157)	(7135)
	%	25.6	39.6	18.5	16.2	100.0
18 アルバイトなどで授業を欠席した	N	(210)	(720)	(1275)	(4923)	(7128)
	%	2.9	10.1	17.9	69.1	100.0
19 その他の理由で授業を欠席した	N	(808)	(2713)	(2193)	(1417)	(7131)
	%	11.3	38.0	30.8	19.9	100.0
20 他の学生の学習補助をした	N	(138)	(536)	(1616)	(4815)	(7105)
	%	1.9	7.5	22.7	67.8	100.0
21 将来のキャリアの相談をした	N	(564)	(1774)	(2138)	(2612)	(7088)
	%	8.0	25.0	30.2	36.9	100.0
22 授業中に居眠りをした	N	(1525)	(3352)	(1606)	(670)	(7153)
	%	21.3	46.9	22.5	9.4	100.0
23 取りたい授業を履修登録できなかった	N	(265)	(855)	(1746)	(4266)	(7132)
	%	3.7	12.0	24.5	59.8	100.0
24 楽器を演奏した	N	(1252)	(1011)	(814)	(4063)	(7140)
	%	17.5	14.2	11.4	56.9	100.0
25 教員と面談した	N	(222)	(1041)	(2035)	(3824)	(7122)
	%	3.1	14.6	28.6	53.7	100.0
26 教員の考え方や意見に異議を唱えた	N	(144)	(726)	(2143)	(4127)	(7140)
	%	2.0	10.2	30.0	57.8	100.0
27 教員に親近感を感じた	N	(739)	(2556)	(2339)	(1524)	(7158)
	%	10.3	35.7	32.7	21.3	100.0

[15] あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。

	N	%
保健衛生	(253)	3.6
看護	(291)	4.1
農工	(367)	5.2
人文	(787)	11.2
経営	(783)	11.1
福祉	(294)	4.2
家政	(394)	5.6
栄養	(910)	12.9
教育	(2426)	34.5
芸術	(74)	1.1
その他	(456)	6.5
合計	(7035)	100

[16] あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。

	短期大学 を卒業	短期大学の 専攻科を卒業	大学・大学院 を卒業	その他	合計	無回答
度数	5702	611	713	142	7168	51
パーセント	79.5	8.5	9.9	2.0	100.0	

[17] あなたは今年度、次の活動に一週間あたりどれくらい時間を費やしましたか。

		0 時 間	1 時 間 未 満	1 2 時 間	3 5 時 間	6 10 時 間	11 15 時 間	16 20 時 間	20 時 間 以 上	合 計	無 回 答
勉強や宿題	度数	740	2201	1762	1304	578	214	112	246	7157	62
	パーセント	10.3	30.8	24.6	18.2	8.1	3.0	1.6	3.4	100.0	
授業への出席	度数	80	95	155	383	722	855	1133	3643	7066	153
	パーセント	1.1	1.3	2.2	5.4	10.2	12.1	16.0	51.6	100.0	
友人との交際	度数	151	322	613	1357	1418	875	640	1699	7075	144
	パーセント	2.1	4.6	8.7	19.2	20.0	12.4	9.0	24.0	100.0	
授業以外での 教師との会話	度数	1233	3850	1139	519	191	72	37	61	7102	117
	パーセント	17.4	54.2	16.0	7.3	2.7	1.0	0.5	0.9	100.0	
運動やスポーツ	度数	1861	2231	1444	775	372	139	72	185	7079	140
	パーセント	26.3	31.5	20.4	10.9	5.3	2.0	1.0	2.6	100.0	
アルバイト	度数	2491	136	129	542	1033	1050	774	952	7107	112
	パーセント	35.0	1.9	1.8	7.6	14.5	14.8	10.9	13.4	100.0	
ボランティア活動	度数	5629	709	293	201	117	42	27	60	7078	141
	パーセント	79.5	10.0	4.1	2.8	1.7	0.6	0.4	0.8	100.0	
部活動や同好会	度数	4922	504	548	504	254	119	63	169	7083	136
	パーセント	69.5	7.1	7.7	7.1	3.6	1.7	0.9	2.4	100.0	
テレビ鑑賞	度数	275	564	846	1445	1221	779	553	1411	7094	125
	パーセント	3.9	8.0	11.9	20.4	17.2	11.0	7.8	19.9	100.0	
家事手伝い	度数	1094	1898	1374	1037	650	330	191	533	7107	112
	パーセント	15.4	26.7	19.3	14.6	9.1	4.6	2.7	7.5	100.0	
趣味としての読書	度数	3265	1590	876	646	320	141	76	174	7088	131
	パーセント	46.1	22.4	12.4	9.1	4.5	2.0	1.1	2.5	100.0	
携帯電話の使用	度数	80	417	612	1039	919	662	550	2816	7095	124
	パーセント	1.1	5.9	8.6	14.6	13.0	9.3	7.8	39.7	100.0	
インターネット上での 友人との交流	度数	2670	1269	815	724	464	282	235	684	7143	76
	パーセント	37.4	17.8	11.4	10.1	6.5	3.9	3.3	9.6	100.0	

[18] あなたは今年度次のことがらをどの程度経験しましたか。

		ま っ た く な か っ た	あ ま り な か っ た	と き ど き あ っ た	ひ ん ば ん に あ っ た	合 計	無 回 答
礼拝や宗教的な活動に参加した	度数	5165	864	791	362	7182	37
	パーセント	71.9	12.0	11.0	5.0	100.0	
政治的な活動に参加した	度数	6182	762	206	27	7177	42
	パーセント	86.1	10.6	2.9	0.4	100.0	
喫煙した	度数	6052	263	267	563	7145	74
	パーセント	84.7	3.7	3.7	7.9	100.0	
アルコール飲料を飲んだ	度数	2560	1427	2330	842	7159	60
	パーセント	35.8	19.9	32.5	11.8	100.0	
やるべきことの多さに圧倒された	度数	875	1239	2750	2303	7167	52
	パーセント	12.2	17.3	38.4	32.1	100.0	
留学生と交流した	度数	5537	758	654	213	7162	57
	パーセント	77.3	10.6	9.1	3.0	100.0	
宗教について討論した	度数	6245	615	248	66	7174	45
	パーセント	87.1	8.6	3.5	0.9	100.0	
政治について討論した	度数	5634	997	426	76	7133	86
	パーセント	79.0	14.0	6.0	1.1	100.0	
ゆううつで落ち込んだ	度数	1554	1586	2539	1492	7171	48
	パーセント	21.7	22.1	35.4	20.8	100.0	
個人的にカウンセリングを求めた	度数	6114	630	293	134	7171	48
	パーセント	85.3	8.8	4.1	1.9	100.0	

〔19〕あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。

	下位10%	平均以下	平均	平均以上	上位10%	合計	無回答
一般的な教養	284 4.0	1594 22.3	4327 60.4	796 11.1	158 2.2	7159 100.0	60
学力	447 6.2	2389 33.4	3738 52.2	498 7.0	83 1.2	7155 100.0	64
芸術的な能力	631 8.9	2244 31.5	3027 42.5	1027 14.4	198 2.8	7127 100.0	92
競争心	537 7.5	1524 21.4	3125 43.8	1542 21.6	404 5.7	7132 100.0	87
コンピュータの操作能力	733 10.3	1943 27.3	2996 42.1	1190 16.7	247 3.5	7109 100.0	110
協調性	292 4.1	997 14.0	3526 49.4	1816 25.4	512 7.2	7143 100.0	76
創造性	313 4.4	1445 20.2	3640 51.0	1347 18.9	399 5.6	7144 100.0	75
やる気	326 4.6	1078 15.1	3368 47.1	1682 23.5	694 9.7	7148 100.0	71
情緒面での安定度	563 7.9	1511 21.1	3433 48.0	1182 16.5	456 6.4	7145 100.0	74
リーダーシップ	957 13.4	2158 30.2	2846 39.8	916 12.8	269 3.8	7146 100.0	73
ねばり強さ	404 5.7	1300 18.2	3022 42.3	1771 24.8	639 9.0	7136 100.0	83
数理的な能力	1455 20.4	2537 35.6	2385 33.4	607 8.5	148 2.1	7132 100.0	87
体の健康	267 3.7	1023 14.3	2960 41.5	1623 22.8	1260 17.7	7133 100.0	86
プレゼンテーションの能力	897 12.6	2634 36.9	2912 40.8	559 7.8	135 1.9	7137 100.0	82
チャレンジ精神	411 5.8	1409 19.7	3204 44.9	1520 21.3	599 8.4	7143 100.0	76
知的面での自信	734 10.3	2219 31.0	3442 48.1	609 8.5	150 2.1	7154 100.0	65
社交面での自信	549 7.7	1567 21.9	3279 45.9	1244 17.4	509 7.1	7148 100.0	71
自己の理解	331 4.6	1105 15.5	3978 55.7	1309 18.3	421 5.9	7144 100.0	75
スピリチュアリティ	465 6.5	1488 20.9	4050 56.8	851 11.9	278 3.9	7132 100.0	87
信仰心	1258 17.7	2066 29.0	3258 45.7	374 5.3	167 2.3	7123 100.0	96
他者の理解	254 3.6	778 10.9	3975 55.8	1742 24.4	376 5.3	7125 100.0	94
文章表現の能力	636 8.9	2135 29.9	3491 48.9	734 10.3	149 2.1	7145 100.0	74
文章読解の能力	548 7.7	1949 27.3	3602 50.4	867 12.1	177 2.5	7143 100.0	76
外国語の能力	1667 23.3	2670 37.3	2328 32.6	411 5.7	76 1.1	7152 100.0	67

〔20〕あなたは、本学のつぎのことごとに、どの程度満足していますか。

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
コンピュータの施設や設備	190 2.6%	642 8.9%	2547 35.5%	2838 39.5%	758 10.6%	202 2.8%	7177 100.0%	42
コンピュータの訓練や援助	182 2.5%	731 10.2%	3363 46.9%	2203 30.7%	461 6.4%	232 3.2%	7172 100.0%	47
インターネットの使いやすさ	252 3.5%	806 11.2%	2804 39.1%	2475 34.5%	633 8.8%	195 2.7%	7165 100.0%	54
図書館の設備	205 2.9%	675 9.4%	2264 31.6%	2843 39.7%	939 13.1%	230 3.2%	7156 100.0%	63
実験室・実習室の設備や器具	133 1.9%	485 6.8%	3145 44.1%	1857 26.0%	543 7.6%	974 13.6%	7137 100.0%	82
就職の斡旋サービス	215 3.0%	643 9.0%	3220 45.1%	1751 24.5%	529 7.4%	788 11.0%	7146 100.0%	73
キャリアカウンセリング	165 2.3%	498 7.0%	3746 52.5%	1233 17.3%	332 4.6%	1167 16.3%	7141 100.0%	78
奨学金など学費援助の制度	141 2.0%	385 5.4%	3271 45.7%	1600 22.4%	511 7.1%	1243 17.4%	7151 100.0%	68
ボランティア活動の機会	146 2.0%	412 5.8%	3887 54.3%	1140 15.9%	315 4.4%	1252 17.5%	7152 100.0%	67
健康保健サービス	110 1.5%	305 4.3%	4067 56.9%	948 13.3%	221 3.1%	1502 21.0%	7153 100.0%	66
下宿やアパートの斡旋や紹介	156 2.2%	398 5.6%	3699 51.8%	776 10.9%	220 3.1%	1889 26.5%	7138 100.0%	81
リーダーシップ発揮の機会	115 1.6%	359 5.0%	4252 59.5%	826 11.6%	167 2.3%	1425 19.9%	7144 100.0%	75
レクリエーション施設	204 2.9%	575 8.0%	3842 53.7%	877 12.3%	199 2.8%	1453 20.3%	7150 100.0%	69
心理相談やカウンセリングサービス	134 1.9%	346 4.8%	3979 55.6%	663 9.3%	156 2.2%	1877 26.2%	7155 100.0%	64

〔21〕 本学の短大教員は、あなたに次の活動をどのくらい提供しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんぱんに あった	合計	無回答
就職や編入学など進路選択の励まし	837 11.7%	1986 27.8%	3085 43.2%	1239 17.3%	7147 100.0%	72
研究プロジェクトに関わる機会	2148 30.1%	3242 45.4%	1456 20.4%	290 4.1%	7136 100.0%	83
教育課程や授業に対する助言や指導	724 10.1%	2077 29.1%	3454 48.3%	889 12.4%	7144 100.0%	75
心の支えや励まし	1128 15.8%	2479 34.7%	2800 39.2%	740 10.4%	7147 100.0%	72
推薦状の執筆	2896 40.9%	2788 39.4%	1164 16.4%	231 3.3%	7079 100.0%	140
学習能力を向上するための手助け	969 13.6%	2517 35.3%	3008 42.2%	638 8.9%	7132 100.0%	87
成績評価以外の学習アドバイス	1147 16.1%	2612 36.6%	2809 39.3%	577 8.1%	7145 100.0%	74
知的にやりがいのある課題や励まし	1263 17.7%	3056 42.9%	2347 33.0%	456 6.4%	7122 100.0%	97
授業以外でも学習内容を話し合う機会	1424 19.9%	2945 41.2%	2304 32.3%	468 6.6%	7141 100.0%	78
専門的な目標を達成する手助け	1203 16.9%	2539 35.6%	2756 38.6%	641 9.0%	7139 100.0%	80
教室での学習を「実生活」に応用する機会	1389 19.5%	3016 42.2%	2325 32.6%	410 5.7%	7140 100.0%	79

〔22〕 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく 減った	減った	変化なし	増えた	大きく 増えた	合計	無回答
一般的な教養	53 0.7%	276 3.9%	2326 32.5%	4132 57.8%	363 5.1%	7150 100.0%	69
分析や問題解決能力	44 0.6%	268 3.8%	3339 46.7%	3240 45.3%	255 3.6%	7146 100.0%	73
専門分野や学科の知識	35 0.5%	126 1.8%	1438 20.1%	3965 55.5%	1579 22.1%	7143 100.0%	76
批判的に考える能力	44 0.6%	302 4.2%	3823 53.7%	2619 36.8%	335 4.7%	7123 100.0%	96
異文化の人々に関する知識	74 1.0%	209 2.9%	4060 56.9%	2366 33.2%	421 5.9%	7130 100.0%	89
リーダーシップの能力	76 1.1%	328 4.6%	4542 63.8%	1927 27.1%	250 3.5%	7123 100.0%	96
人間関係を構築する能力	66 0.9%	277 3.9%	2619 36.7%	3507 49.2%	665 9.3%	7134 100.0%	85
他の人と協力して物事を遂行する能力	64 0.9%	219 3.1%	2657 37.2%	3413 47.8%	784 11.0%	7137 100.0%	82
異文化の人々と協力する能力	103 1.4%	288 4.0%	4991 70.0%	1507 21.1%	241 3.4%	7130 100.0%	89
地域社会が直面する問題の理解	60 0.8%	224 3.1%	4483 62.8%	2107 29.5%	261 3.7%	7135 100.0%	84
国民が直面する問題の理解	58 0.8%	212 3.0%	4428 62.0%	2191 30.7%	251 3.5%	7140 100.0%	79
グローバルな問題の理解	64 0.9%	235 3.3%	4797 67.3%	1788 25.1%	249 3.5%	7133 100.0%	86
文章表現の能力	67 0.9%	334 4.7%	3834 53.7%	2630 36.9%	271 3.8%	7136 100.0%	83
外国語の運用能力	188 2.6%	676 9.5%	4620 64.8%	1416 19.9%	231 3.2%	7131 100.0%	88
コミュニケーションの能力	53 0.7%	238 3.3%	2944 41.2%	3291 46.1%	615 8.6%	7141 100.0%	78
プレゼンテーションの能力	63 0.9%	280 3.9%	4459 62.5%	2065 28.9%	268 3.8%	7135 100.0%	84
数理的な能力	242 3.4%	983 13.8%	4972 69.7%	849 11.9%	83 1.2%	7129 100.0%	90
コンピュータの操作能力	75 1.1%	232 3.3%	2920 41.0%	3333 46.8%	561 7.9%	7121 100.0%	98
時間を効果的に利用する能力	74 1.0%	324 4.5%	3403 47.7%	2838 39.8%	497 7.0%	7136 100.0%	83
卒業するための準備の程度	83 1.2%	210 2.9%	3069 43.0%	3121 43.7%	651 9.1%	7134 100.0%	85

[23] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。

	まったく うまくい なかつた	あまり うまくい なかつた	い くら か う ま く い っ た	と と も う ま く い っ た	合計	無回答
学生向けサービスを上手に利用する	640 9.0%	2986 41.9%	3187 44.7%	320 4.5%	7133 100.0%	86
大学教員の学問的な期待を理解する	585 8.2%	3519 49.4%	2795 39.2%	226 3.2%	7125 100.0%	94
効果的に学習する技能を修得する	459 6.5%	3048 42.9%	3296 46.4%	305 4.3%	7108 100.0%	111
大学が求める水準に応じて学習する	480 6.7%	3102 43.6%	3236 45.5%	300 4.2%	7118 100.0%	101
時間を効果的に使う	411 5.8%	2462 34.5%	3644 51.1%	609 8.5%	7126 100.0%	93
大学教員と顔見知りになる	334 4.7%	1713 24.1%	3981 55.9%	1094 15.4%	7122 100.0%	97
他の学生との友情を深める	284 4.0%	1052 14.8%	3560 49.9%	2234 31.3%	7130 100.0%	89

[24] あなたの本学での成績はどれくらいですか。

	度数	パーセント
上位の方	488	6.8%
中の上くらい	1150	16.1%
中くらい	2333	32.7%
中の下くらい	1327	18.6%
下位の方	1104	15.5%
その他	735	10.3%
合計	7137	100.0%
無回答	82	

〔25〕 あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
専門分野で第一人者になる	845 11.8%	2973 41.6%	2442 34.1%	895 12.5%	7155 100.0%	64
専門分野で仲間に認められる	343 4.8%	1195 16.7%	3463 48.4%	2148 30.0%	7149 100.0%	70
政治的な活動にたずさわる	1985 27.8%	3413 47.8%	1476 20.7%	261 3.7%	7135 100.0%	84
社会の価値観に影響を与える	1284 18.0%	3060 42.9%	2230 31.3%	551 7.7%	7125 100.0%	94
家族を養う	217 3.0%	993 13.9%	3041 42.5%	2898 40.5%	7149 100.0%	70
家庭を築く	254 3.6%	781 11.0%	2534 35.6%	3553 49.9%	7122 100.0%	97
企業や団体などで管理職になる	1180 16.5%	3555 49.8%	1904 26.7%	494 6.9%	7133 100.0%	86
会社などで出世する	795 11.1%	2541 35.6%	2692 37.7%	1109 15.5%	7137 100.0%	82
お金持ちになる	452 6.3%	1915 26.8%	2962 41.5%	1809 25.3%	7138 100.0%	81
困っている人の役に立つ	191 2.7%	786 11.1%	3231 45.6%	2873 40.6%	7081 100.0%	138
文芸作品を執筆する	2523 35.3%	3254 45.6%	1055 14.8%	307 4.3%	7139 100.0%	80
芸術作品を製作する	2434 34.1%	3077 43.1%	1271 17.8%	362 5.1%	7144 100.0%	75
舞台芸術で成功する	2543 35.7%	3054 42.9%	1153 16.2%	375 5.3%	7125 100.0%	94
ビジネスで成功する	1143 16.1%	2459 34.5%	2476 34.8%	1043 14.6%	7121 100.0%	98
環境を守るための活動に参加	735 10.3%	2490 34.9%	2979 41.8%	927 13.0%	7131 100.0%	88
人生の意味を深く考える	411 5.8%	1643 23.0%	3144 44.0%	1943 27.2%	7141 100.0%	78
地域社会の活動に参加する	644 9.0%	2411 33.8%	3107 43.5%	975 13.7%	7137 100.0%	82
人権意識の向上に役立つ	790 11.1%	2844 39.9%	2713 38.1%	781 11.0%	7128 100.0%	91
政治の動向に関心を持つ	1168 16.4%	2982 41.9%	2356 33.1%	618 8.7%	7124 100.0%	95
地域社会のリーダーになる	1569 22.1%	3782 53.2%	1455 20.5%	299 4.2%	7105 100.0%	114
精神性や信仰心を生活に反映させる	1433 20.1%	3418 48.0%	1824 25.6%	447 6.3%	7122 100.0%	97
多様な社会や文化を理解する	620 8.7%	2137 30.0%	3177 44.7%	1178 16.6%	7112 100.0%	107
友人関係を大切にす	90 4.0%	303 4.2%	1726 24.2%	5021 70.6%	7140 100.0%	79
自分の生きたい人生を送る	69 1.0%	293 4.1%	1691 23.7%	5093 71.3%	7146 100.0%	73

[26] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。

女性の生き方の回答割合（全体傾向）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	242	3.4%
結婚や出産をしても仕事を続ける	2378	33.7%
結婚や出産時に仕事をやめる	899	12.8%
子どもの手が離れたら再び働く	3418	48.5%
就職はしないで結婚する	112	1.6%
合計	7049	100.0%
無回答	170	

女性の生き方の回答割合（女子学生のみ）

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	217	3.6%
結婚や出産をしても仕事を続ける	1996	33.3%
結婚や出産時に仕事をやめる	680	11.4%
子どもの手が離れたら再び働く	3024	50.5%
就職はしないで結婚する	71	1.2%
合計	5988	100.0%
無回答	73	

[27] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1994	29.4%
就職活動中であるが、内定が無い	1410	20.8%
内定を受けたが、断った	28	0.4%
ある内定を受けるかどうか考慮中	275	4.1%
内定が決定した	1476	21.7%
今年は就職を考えていない	1604	23.6%
合計	6787	100.0%
無回答	432	

学年別

	1年生		2年生以上	
	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1614	45.5%	380	11.8%
就職活動中であるが、内定が無い	479	13.5%	929	28.8%
内定を受けたが、断った	5	0.1%	23	0.7%
ある内定を受けるかどうか考慮中	181	5.1%	93	2.9%
内定が決定した	85	2.4%	1389	43.0%
今年は就職を考えていない	1185	33.4%	417	12.9%
合計	3549	100.0%	3231	100.0%

[28] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

	度数	パーセント
建築士や都市設計士	12	0.2%
エンジニア	70	1.0%
プログラマー	11	0.2%
歯科医	6	0.1%
医師	5	0.1%
獣医	5	0.1%
薬剤師	1	0.0%
看護師	260	3.8%
医療技師や衛生士	185	2.7%
理学療法士や作業療法士、言語聴覚士	45	0.7%
栄養士や管理栄養士	417	6.2%
社会福祉士	108	1.6%
ホームヘルパー	37	0.5%
保育士	1331	19.7%
弁護士や裁判官	5	0.1%
会計士や税理士	18	0.3%
幼稚園の教員	530	7.8%
小学校の教員	21	0.3%
中学校や高校の教員	42	0.6%
大学や短大の教員	8	0.1%
その他学校の教員	9	0.1%
学校外の各種の教員職	16	0.2%
学校や大学の職員	4	0.1%
学校のカウンセラー	11	0.2%
臨床心理士	3	0.0%
聖職者	10	0.1%
芸術家	55	0.8%
インテリアデザイナー	31	0.5%
作家やジャーナリスト	29	0.4%
演奏家や作曲家	26	0.4%
俳優や演出家	58	0.9%
国や地方自治体の議員	2	0.0%
国家公務員	30	0.4%
地方公務員	130	1.9%
自衛隊員	11	0.2%
警察官	28	0.4%
消防士	7	0.1%
パイロットや客室乗務員	32	0.5%
海外勤務者	67	1.0%
ベンチャービジネス	31	0.5%
科学研究者	3	0.0%
旅行や観光業の仕事	176	2.6%
新聞や放送関係の仕事	52	0.8%
インターネット関係の仕事	46	0.7%
企業や団体の事務職	324	4.8%
企業や団体の経営者	55	0.8%
小売店の自営業者	51	0.8%
販売員や卸売業者	301	4.4%
農林水産業の従事者	88	1.3%
製造業の技能工	90	1.3%
専業主婦	183	2.7%
フリーター	42	0.6%
その他	724	10.7%
まだ決めていない	925	13.7%
合計	6767	100.0%
無回答	452	

志望別（上位 10 位まで）

	度数	パーセント
保育士	1331	19.7%
幼稚園の教員	530	7.8%
栄養士や管理栄養士	417	6.2%
企業や団体の事務職	324	4.8%
販売員や卸売業者	301	4.4%
看護師	260	3.8%
医療技師や衛生士	185	2.7%
専業主婦	183	2.7%
旅行や観光業の仕事	176	2.6%
地方公務員	130	1.9%
その他（選択肢内の職業を志望）	1281	18.9%
その他（選択肢外の職業を志望）	724	10.7%
まだ決めていない	925	13.7%
合計	6767	100.0%

〔29〕 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらほどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
社会を変えるための仕事	610 8.6%	2976 41.9%	2813 39.6%	702 9.9%	7101 100.0%	118
高収入の可能性	246 3.5%	1618 22.8%	3659 51.5%	1581 22.3%	7104 100.0%	115
世間的な知名度や地位	578 8.2%	2979 42.0%	2749 38.8%	780 11.0%	7086 100.0%	133
生活の安定や保証	101 1.4%	488 6.9%	2935 41.4%	3569 50.3%	7093 100.0%	126
創造性や独創性	416 5.9%	2301 32.5%	3144 44.4%	1222 17.3%	7083 100.0%	136
自己を表現する仕事	323 4.6%	1755 24.8%	3262 46.1%	1741 24.6%	7081 100.0%	138
自由な時間	108 1.5%	823 11.6%	3476 49.0%	2682 37.8%	7089 100.0%	130
リーダーシップを発揮できる可能性	729 10.3%	3294 46.4%	2382 33.6%	693 9.8%	7098 100.0%	121
さまざまな領域の仕事をする可能性	547 7.7%	2737 38.6%	2902 40.9%	910 12.8%	7096 100.0%	123

〔30〕あなたは、本学にどれくらい満足していますか。

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	154 2.2%	485 6.8%	3503 49.4%	2283 32.2%	400 5.6%	269 3.8%	7094 100.0%	125
専門科目の授業	116 1.6%	434 6.1%	2437 34.4%	3146 44.4%	796 11.2%	158 2.2%	7087 100.0%	132
1年次生を対象とした教育プログラム内容	167 2.4%	456 6.5%	3615 51.6%	1749 25.0%	416 5.9%	597 8.5%	7000 100.0%	219
授業の全体的な質	208 2.9%	943 13.3%	3299 46.5%	2162 30.5%	342 4.8%	136 1.9%	7090 100.0%	129
日常生活と授業の内容との関連	123 1.7%	560 7.9%	3691 52.2%	2146 30.3%	351 5.0%	204 2.9%	7075 100.0%	144
キャリア計画に対する授業内容の有効性	141 2.0%	524 7.4%	3610 51.1%	2121 30.0%	402 5.7%	271 3.8%	7069 100.0%	150
1つの授業を履修する学生数	145 2.0%	529 7.5%	3443 48.6%	2346 33.1%	397 5.6%	229 3.2%	7089 100.0%	130
教員と話をする機会	135 1.9%	556 7.8%	3687 52.0%	2021 28.5%	446 6.3%	245 3.5%	7090 100.0%	129
教職員による学生支援体制	161 2.3%	608 8.6%	3817 53.9%	1756 24.8%	368 5.2%	372 5.3%	7082 100.0%	137
個人別の学習指導や援助	177 2.5%	748 10.6%	3849 54.4%	1615 22.8%	328 4.6%	362 5.1%	7079 100.0%	140
履修や成績に対するアドバイス	178 2.5%	779 11.0%	3601 51.0%	1844 26.1%	369 5.2%	294 4.2%	7065 100.0%	154
他の学生と話をする機会	111 1.6%	326 4.6%	2747 38.8%	2598 36.7%	1100 15.5%	197 2.8%	7079 100.0%	140
学生同士の一体感	171 2.4%	481 6.8%	3000 42.4%	2296 32.4%	915 12.9%	220 3.1%	7083 100.0%	136
学生交流の機会	147 2.1%	465 6.6%	3266 46.2%	2179 30.8%	789 11.2%	225 3.2%	7071 100.0%	148
多様な考え方を認め合う雰囲気	141 2.0%	457 6.5%	3520 49.7%	2124 30.0%	557 7.9%	278 3.9%	7077 100.0%	142
短大全体の学生数	151 2.1%	465 6.6%	3379 47.7%	2255 31.8%	561 7.9%	278 3.9%	7089 100.0%	130
短大での経験全般について	147 2.1%	385 5.4%	3141 44.4%	2441 34.5%	713 10.1%	252 3.6%	7079 100.0%	140

[31] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。

	度数	パーセント
第1志望	5481	77.6%
第2志望以下	1585	22.4%
合計	7066	100.0%
無回答	153	

[32] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

	度数	パーセント
一般入試	1046	14.7%
一般と大学入試センター試験の併用型	91	1.3%
大学入試センター試験利用型	78	1.1%
内部進学	282	4.0%
指定校推薦	2964	41.8%
スポーツや課外活動の推薦	73	1.0%
公募推薦	999	14.1%
AO選考	1246	17.6%
留学生入試	67	0.9%
社会人入試	133	1.9%
その他の試験	114	1.6%
合計	7093	100.0%
無回答	126	

	度数	パーセント
一般入試	1215	17.1%
各種推薦入試	5564	78.4%
その他	314	4.4%
合計	7093	100.0%
無回答	126	

[33] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。

	度数	パーセント
高校入学前	252	3.6%
高校1年生	197	2.8%
高校2年生	634	9.1%
高校3年生(4月～6月)	1102	15.8%
高校3年生(7月～8月)	1714	24.6%
高校3年生(9月～10月)	1781	25.5%
高校3年生(12月から1月中旬)	685	9.8%
大学入試センター試験終了後	386	5.5%
浪人生時代	222	3.2%
合計	6973	100.0%
無回答	246	

[34-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
はい	3354	47.4%
いいえ	3460	48.9%
その他	258	3.6%
合計	7072	100.0%
無回答	147	

[34-2] ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。

	度数	パーセント
父親	1847	55.1%
母親	1653	49.3%
兄弟	819	24.4%
姉妹	857	25.6%
その他	108	3.2%
合計	5284	

[35] あなたの学生生活は充実していますか。

	度数	パーセント
充実している	2174	30.9%
ある程度充実している	2690	38.2%
普通である	1189	16.9%
あまり充実していない	696	9.9%
充実していない	286	4.1%
合計	7035	100.0%
無回答	184	

[36] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度本学に進学しますか。

	度数	パーセント
かならず進学する	532	7.5%
おそらく進学する	1880	26.7%
おそらく進学しない	1709	24.2%
絶対に進学しない	923	13.1%
わからない	2004	28.4%
合計	7048	100.0%
無回答	171	